

# 調査結果の分析



# 第1章 県民生活の満足度

## 1 質問項目と分析方法

### (1) 質問項目の内容

問1 あなたは、お住まいや周辺の環境・日々の暮らしの中で、次のような項目1つ1つについて、どの程度満足していますか。

お答えは、「満足している」、「どちらかといえば満足している」、「どちらともいえない」、「どちらかといえば不満である」、「不満である」の5つから選んでください。(○はそれぞれ1つ)

(あなたにあてはまらない場合は、「わからない」を選んでください。)

満足度調査における各項目は、県民の多様な生活面について、現在どの程度満足しているのかを量るとともに、年次経過に伴う動向や傾向を把握する目的で設定されたものである。このため、質問項目は変更しないことが原則となり、今回の調査においても、質問領域・質問項目は原則として前回と同じとしたが、質問領域のうち、「教育・文化」を「子育て・教育」と「文化」に再編成した。また、「子育て・教育」の質問項目に「出産・育児」を新たに追加した。なお、今回の質問領域・質問項目は図表1-1-1に示すとおりである。

質問方法については、前回までと同様である。すなわち、「お住まいや周辺の環境・日々の暮らしの中で、次のような項目1つ1つについて、どの程度満足していますか」と質問し、次いで、各質問項目について「満足」、「どちらかといえば満足」、「どちらともいえない」、「どちらかといえば不満」、「不満」の5段階の評価で回答する方法である。

なお、以下、各質問項目の記述に際しては、図表1-1-1の左欄の略称名を使用することとする。たとえば、健康領域の「日ごろ病気になったときにかかる病院や医院の医療について」の質問項目は、単に「日常医療」と記述する。

図表 1-1-1 満足度質問項目一覧

領域	項目(略称)	質問内容
健康	1 日常医療	日ごろ病気になったときにかかる病院や医院の医療について
	2 救急医療	休日や夜間などの救急医療について
	3 検診・相談	市役所、町村役場が行う生活習慣病検診や医療相談について
	4 健康全般	あなたの健康を守るための環境全般について
安全	5 交通安全	毎日の生活の中での交通の安全性について
	6 防犯・防火	あなたがお住まいの地域包括支援センターでの防犯体制や防火活動について
	7 自然災害	地震や大雨による浸水・がけくずれなど自然災害からの安全性について
	8 安全全般	あなたの生活全般の安全性について

居住環境	9 自然環境	山や川などの自然環境について
	10 大気汚染等	大気汚染や水質汚濁、騒音、振動、悪臭などの状況について
	11 公園広場等	公園、広場、遊び場などについて
	12 ごみ・生活排水	あなたの地域でのごみや生活排水の処理について
	13 住 宅	現在お住まいの住宅の敷地や建物の広さについて
	14 公共交通機関	バス、鉄道など公共交通の利便性について
	15 道 路	あなたの地域の道路の整備状況について
	16 買 い 物	日常の買い物の利便性について
	17 居住環境全般	あなたの居住環境全般について
仕事	18 就職の機会	自分の望む仕事に就職、転職する機会や職業紹介について
	19 労働条件	労働時間や休日、福利厚生、仕事の安全衛生などについて
	20 仕事のやりがい	今の仕事のやりがいについて
	21 仕事全般	あなたの今のお仕事全般について
所得・消費	22 所 得	あなたのご家庭の所得について
	23 資 産	あなたのご家庭の資産（預貯金、株式、不動産など）について
	24 消 費	商品（サービス）の種類や豊富さについて
	25 物 価	最近の物価について
	26 所得・消費全般	あなたのご家庭の暮らしむき全般について
子育て・教育	27 出 産 ・ 育 児	出産・育児環境について
	28 幼稚園・保育所	幼稚園、保育所などの施設について
	29 小中高の教育	小・中学校、高等学校などの教育について
	30 高等教育の機会	県内で大学、短期大学、専門学校などの教育を受ける機会について
	31 家庭教育	しつけなどの各家庭の教育について
	32 子育て・教育全般	あなたのご家族の子育て・教育全般について
文化	33 生涯教育	趣味の会、教養講座などの文化活動に参加したり、すぐれた芸術文化に接したりする機会について
	34 文化施設	図書館、文化ホール、美術館、博物館などの施設について
	35 文化財・伝統継承	史跡、文化財、郷土芸能、まつりなどの保存や伝承について
	36 文化全般	あなたが日ごろ接している文化全般について
余暇	37 自由時間	あなたが自由にできる時間について
	38 余暇施設	スポーツ、レクリエーションなどのための身近な施設やそれらの利用のしやすさについて
	39 娯 楽	県内の映画館、劇場、遊園地などでの娯楽・レジャーについて
	40 余暇情報	催し物・イベントなどの余暇情報を得る機会について
	41 自然と親しむ機会	ハイキングなど自然と親しむ機会について
	42 余暇全般	あなたの休日や余暇の過ごし方全般について
福祉・連帯	43 地域とのつながり	近所づきあいや地域で行われる行事への住民の参加について
	44 福祉施策	お年寄り、子ども、障害者などに対する国や県の施策について
	45 福祉・連帯全般	あなたがお住まいの地域での人のつながりや福祉サービス全般について
46 生活全般	あなたの生活全般について	

## (2) 満足度の得点化

満足度の分析にあたっては、「満足」から「不満」に至る5段階の構成比による分析を行うとともに、質問項目相互間、地域や年齢・性別などの属性間の比較を行いやすくするため、得点化方式を用いることとする。すなわち、各質問項目について、各回答の評価段階ごとに一定の得点を与え、県全体、地域、年齢・性別などの属性間における比較検討のための集計グループごとの平均点をそれぞれの満足度得点として分析を進める。各評価段階の得点及び満足度得点の算式は、時系列分析も考慮し、図表 1-1-2 に示すとおり、過去の調査と同様とする。

図表 1-1-2 得点と算式

段階	満足	どちらかといえば満足	どちらともいえない	どちらかといえば不満	不満
得点	+ 200	+ 100	0	- 100	- 200

$$\text{満足度得点算式} = \{200 \times A + 100 \times B + 0 \times C + (-100) \times D + (-200) \times E\} / m$$

A: 「満足」と答えた回答者数

B: 「どちらかといえば満足」と答えた回答者数

C: 「どちらともいえない」と答えた回答者数

D: 「どちらかといえば不満」と答えた回答者数

E: 「不満」と答えた回答者数

m: 「わからない」または「不明」を除く回答者数 (A+B+C+D+E)

したがって、仮にこの得点のプラス値が大きければ大きいほど強い満足度であり、逆に、マイナス値で、その絶対値が大きければ大きいほど強い不満足度であることを示唆する。

また、「満足」と「どちらかといえば満足」の両者をつなげたものを「満足層」とし、「どちらかといえば不満」と「不満」の両者をつなげたものを「不満層」とすれば、この満足層・不満層の大きさによっても、ある程度、満足傾向あるいは不満傾向の状況が推測可能と考えられる。

なお、この満足度得点を満足度水準の指標として用いるにあたっては、次のアからエまでの前提条件を踏まえて理解する必要がある。

ア 満足度の質は、質問項目ごとに異なるものであるが、これらを共通の尺度で測定できるものとの前提に立ち、満足度得点によって質問項目間の比較ができるものとしている。

イ 「満足」から「不満」までの5段階評価の数量的間隔、たとえば、「満足」・「どちらかといえば満足」の差と、「どちらかといえば満足」・「どちらともいえない」の差は、質的に見て必ずしも等しいとは限らないが、この差は等しいものとしている。

ウ 満足度得点は、得点の平均値であり、たとえこれが等しくても、「満足」から「不満」までの度数分布の型は、現実的には必ずしも一様ではないが、ここでは度数分布の型は一様であるものとしている。

エ 「わからない」または「不明」の回答者も、「満足」から「不満」までの5段階のうち、いずれかを選択した回答者と同じ回答分布であるものとしている。

### (3) 満足度得点の標本誤差

この調査の結果は、県民全体の中から一部の県民を無作為に選び出し、この県民の回答を集計したものであり、いわゆる標本調査の結果である。したがって、この結果は、そのまま県民全体や地域全体、つまり母集団の意向、意識、意見を反映したものと考えられる。しかし、標本の満足度得点をもとに、母集団についての意向、意識、意見を把握しようとする場合には、標本誤差を考慮する必要がある。言い換えれば、標本調査は、調査の対象となった一部の人の回答結果から母集団の状態を、ある程度の幅をもって推測する方法であり、今回の調査結果の検討・分析に使用している満足度得点は、標本となっている個々人の回答を得点に置き換え、全回答者の得点を合計し、算術平均として計算した平均得点である。統計学上、推測しようとする母集団の満足度得点は、標本の満足度得点を中心に上下に一定の範囲まで広げた幅の中にあるものと考えられる。通常、この幅は「標本誤差」と呼ばれているが、信頼度を95%とした場合、その誤差の大きさは、 $[\text{標本誤差} = \text{標準偏差} \times 2 \div \text{標本数の平方根}]$ の算式によって計算される。

いま、ある地域の満足度得点と他の地域の満足度得点とを比較し、どちらの地域がより満足傾向にあるのか、あるいは同程度であるのかを判断する場合、両者の得点差が問題となる。統計的には、この判断は、比較しようとする項目間、地域間、属性間のすべてについて、上記の算式に従って、これを計算する必要がある。また、この得点差は、標準偏差と標本数の大きさによって決まり、標準偏差が小さく、標本数が大きい場合には、わずかの得点差でも「差(有意差)」があるものと判断される。

## 2 満足度の概観

県全体における満足度調査の結果について、「生活全般」、「領域全般」、「個別項目」の3つに分けて概観する。なお、図表1-2-1は、過去3回の調査結果と今回の調査結果を比較したものである。

図表1-2-1 質問項目別満足度（全県）

(単位：%)

領域	項目	年度	満足度					満足層	不満層	満足傾向 (+)	不満傾向 (-)
			■ 満足	■ どちらかといえば満足	■ どちらかといえば不満	■ 不満	■ わからない				
健康	日常医療	H24	15.4	38.9	25.1	11.2	5.6	3.7	54.3	16.8	37.5
		H29	18.7	40.1	23.9	8.6	5.0	3.7	58.8	13.6	45.2
		R3	22.3	40.8	21.9	7.5	3.1	4.3	63.1	10.6	52.5
		<b>R7</b>	<b>19.9</b>	<b>42.6</b>	<b>21.4</b>	<b>7.6</b>	<b>4.5</b>	<b>4.0</b>	<b>62.5</b>	<b>12.1</b>	<b>50.4</b>
	救急医療	H24	6.0	20.5	31.5	15.6	11.1	15.3	26.5	26.7	0.2
		H29	8.6	22.5	28.5	15.5	9.4	15.5	31.1	24.9	6.2
		R3	10.5	23.2	29.5	12.1	6.7	18.1	33.7	18.8	14.9
		<b>R7</b>	<b>8.3</b>	<b>20.6</b>	<b>31.2</b>	<b>14.4</b>	<b>8.0</b>	<b>17.5</b>	<b>28.9</b>	<b>22.4</b>	<b>6.5</b>
	検診・相談	H24	8.6	24.4	38.5	6.9	3.0	18.6	33.0	9.9	23.2
		H29	8.4	26.2	37.7	5.3	2.4	20.0	34.6	7.7	26.9
		R3	10.8	23.2	34.9	4.3	2.2	24.5	34.0	6.5	27.5
		<b>R7</b>	<b>9.4</b>	<b>22.0</b>	<b>35.2</b>	<b>4.8</b>	<b>1.9</b>	<b>26.7</b>	<b>31.4</b>	<b>6.7</b>	<b>24.7</b>
	健康全般	H24	7.5	29.6	39.6	8.6	4.3	10.5	37.1	12.8	24.3
		H29	9.7	33.3	37.5	7.3	3.1	9.1	43.0	10.4	32.6
		R3	13.2	33.0	34.8	5.9	2.3	10.9	46.2	8.2	38.0
		<b>R7</b>	<b>10.4</b>	<b>32.6</b>	<b>36.1</b>	<b>6.4</b>	<b>3.1</b>	<b>11.4</b>	<b>43.0</b>	<b>9.5</b>	<b>33.5</b>
安全	交通安全	H24	7.1	29.3	32.4	18.4	9.6	3.3	36.4	28.0	8.4
		H29	8.9	30.4	33.6	16.6	8.1	2.4	39.3	24.7	14.6
		R3	9.9	31.3	30.7	16.7	7.2	4.2	41.2	23.9	17.3
		<b>R7</b>	<b>9.8</b>	<b>29.2</b>	<b>29.4</b>	<b>18.5</b>	<b>9.3</b>	<b>3.7</b>	<b>39.0</b>	<b>27.8</b>	<b>11.2</b>
	防犯・防火	H24	6.5	31.8	39.7	10.4	4.1	7.5	38.3	14.5	23.8
		H29	8.6	32.8	36.5	8.6	3.6	9.9	41.4	12.2	29.2
		R3	10.6	32.3	36.6	6.9	3.3	10.4	42.9	10.2	32.7
		<b>R7</b>	<b>8.4</b>	<b>29.2</b>	<b>38.4</b>	<b>8.6</b>	<b>3.9</b>	<b>11.5</b>	<b>37.6</b>	<b>12.5</b>	<b>25.1</b>
	自然災害	H24	7.4	25.7	37.4	12.0	8.2	9.3	33.1	20.2	12.9
		H29	7.7	25.5	37.5	12.8	6.2	10.3	33.2	19.0	14.2
		R3	9.3	25.2	36.5	11.9	6.5	10.6	34.5	18.4	16.1
		<b>R7</b>	<b>10.4</b>	<b>24.5</b>	<b>36.8</b>	<b>12.2</b>	<b>5.6</b>	<b>10.5</b>	<b>34.9</b>	<b>17.8</b>	<b>17.1</b>
	安全全般	H24	6.6	34.0	41.8	9.2	3.5	4.9	40.6	12.7	27.9
		H29	8.9	37.4	37.3	8.0	2.4	6.0	46.3	10.4	35.9
		R3	11.0	38.6	35.3	7.1	2.3	5.7	49.6	9.4	40.2
		<b>R7</b>	<b>11.5</b>	<b>36.6</b>	<b>34.6</b>	<b>8.0</b>	<b>3.2</b>	<b>6.1</b>	<b>48.1</b>	<b>11.2</b>	<b>36.9</b>

領域	項目	満足度						満足層	不満層	満足傾向 (+)	不満傾向 (-)
		年度		満足		どちらかといえば満足					
				■ 満足		■ どちらかといえば満足					
				■ どちらともいえない		■ どちらかといえば不満					
				■ 不満		■ わからない					
居住環境	自然環境	H24	21.2	41.0	21.9	7.1	4.0	4.8	62.2	11.1	51.1
		H29	24.2	39.0	23.5	5.6	2.5	5.1	63.2	8.2	55.0
		R3	25.4	38.4	21.5	5.7	3.0	6.0	63.8	8.7	55.1
		R7	22.3	37.6	24.7	5.6	3.1	6.6	<b>59.9</b>	<b>8.7</b>	<b>51.2</b>
	大気汚染等	H24	11.4	34.6	26.9	14.0	9.6	3.4	46.0	23.6	22.4
		H29	14.4	37.3	25.9	12.0	6.5	3.9	51.7	18.5	33.2
		R3	15.7	36.1	26.7	10.4	5.9	5.2	51.8	16.3	35.5
		R7	15.3	36.4	26.3	10.8	5.9	5.2	<b>51.7</b>	<b>16.7</b>	<b>35.0</b>
	公園広場等	H24	9.0	24.2	31.4	18.1	11.6	5.7	33.2	29.7	3.5
		H29	10.8	27.0	30.4	15.6	9.5	6.7	37.8	25.1	12.7
		R3	10.1	27.5	29.3	14.9	9.8	8.4	37.6	24.7	12.9
		R7	10.9	27.4	27.4	16.2	10.4	7.5	<b>38.3</b>	<b>26.6</b>	<b>11.7</b>
	ごみ・生活排水	H24	14.5	36.6	28.3	11.6	5.8	3.2	51.1	17.4	33.7
		H29	17.0	39.2	24.0	9.7	5.0	5.1	56.2	14.7	41.5
		R3	19.3	37.4	23.2	9.5	5.4	5.2	56.7	14.9	41.8
		R7	18.9	39.2	24.0	9.0	4.1	4.8	<b>58.1</b>	<b>13.1</b>	<b>45.0</b>
	住宅	H24	25.3	38.3	21.3	9.9	4.3	1.0	63.6	14.2	49.4
		H29	29.7	37.2	19.0	8.5	3.9	1.0	66.9	12.4	54.5
		R3	31.8	35.9	17.7	9.5	3.2	1.8	67.7	12.7	55.0
		R7	32.2	36.9	18.2	7.3	3.2	2.1	<b>69.1</b>	<b>10.5</b>	<b>58.6</b>
	公共交通機関	H24	5.7	15.5	21.1	23.0	30.2	4.4	21.2	53.2	32.0
		H29	4.9	13.3	20.9	23.8	32.6	4.5	18.2	56.4	38.2
		R3	7.0	13.3	22.9	23.7	26.7	6.4	20.3	50.4	30.1
		R7	5.3	12.6	21.4	25.3	29.2	6.3	<b>17.9</b>	<b>54.5</b>	<b>36.6</b>
道路	H24	6.8	28.1	27.4	20.6	15.5	1.6	34.9	36.1	1.2	
	H29	7.7	28.8	27.5	20.6	12.8	2.6	36.5	33.4	3.1	
	R3	9.3	28.9	26.6	19.8	11.6	3.8	38.2	31.4	6.8	
	R7	9.0	28.1	24.8	23.2	12.6	2.3	<b>37.1</b>	<b>35.8</b>	<b>1.3</b>	
買い物	H24	13.1	36.4	21.2	15.2	13.3	0.9	49.5	28.5	21.0	
	H29	14.7	35.4	20.3	16.4	11.6	1.6	50.1	28.0	22.1	
	R3	18.9	35.6	19.6	14.0	9.8	2.0	54.5	23.8	30.7	
	R7	20.9	35.5	18.2	13.9	10.0	1.5	<b>56.4</b>	<b>23.9</b>	<b>32.5</b>	
居住環境全般	H24	10.9	41.2	33.1	8.9	4.3	1.6	52.1	13.2	38.9	
	H29	13.2	43.2	29.1	9.0	3.7	1.8	56.4	12.7	43.7	
	R3	16.1	44.4	25.9	7.9	2.6	3.0	60.5	10.5	50.0	
	R7	16.7	41.7	29.0	7.2	3.1	2.3	<b>58.4</b>	<b>10.3</b>	<b>48.1</b>	
仕事	就職の機会	H24	4.6	14.1	32.0	13.0	9.7	26.5	18.7	22.7	4.0
		H29	6.8	16.1	32.2	11.8	8.5	24.6	22.9	20.3	2.6
		R3	8.4	17.2	29.3	9.1	6.0	30.1	25.6	15.1	10.5
		R7	7.9	17.5	32.7	9.3	7.0	25.6	<b>25.4</b>	<b>16.3</b>	<b>9.1</b>
	労働条件	H24	6.3	18.2	31.9	12.8	9.7	21.0	24.5	22.5	2.0
		H29	6.7	21.8	30.4	11.2	9.3	20.6	28.5	20.5	8.0
		R3	11.0	22.0	25.6	9.8	7.0	24.5	33.0	16.8	16.2
		R7	10.6	24.3	29.0	11.0	7.5	17.6	<b>34.9</b>	<b>18.5</b>	<b>16.4</b>
	仕事のやりがい	H24	11.7	29.3	27.2	7.0	6.0	18.7	41.0	13.0	28.0
		H29	12.3	29.0	26.5	7.4	5.3	19.5	41.3	12.7	28.6
		R3	15.2	27.7	24.9	5.8	4.0	22.5	42.9	9.8	33.1
		R7	15.5	31.4	24.5	5.7	6.4	16.4	<b>46.9</b>	<b>12.1</b>	<b>34.8</b>
	仕事全般	H24	9.9	28.7	28.9	8.3	6.3	17.9	38.6	14.6	24.0
		H29	10.8	29.0	26.8	8.0	6.2	19.2	39.8	14.2	25.6
		R3	13.3	28.0	24.5	7.2	4.3	22.6	41.3	11.5	29.8
		R7	13.7	31.2	25.4	6.9	6.8	16.0	<b>44.9</b>	<b>13.7</b>	<b>31.2</b>

領域	項目	満足度						満足層	不満層	満足傾向 (+)	不満傾向 (-)
		■満足		■どちらともいえない		■不満					
		年度									
		■どちらかといえば満足		■どちらかといえば不満		■わからない					
所得・消費	所得	H24	3.9	15.9	36.0	19.1	19.4	5.7	19.8	38.5	18.7
		H29	6.7	20.7	34.1	18.3	14.8	5.4	27.4	33.1	5.7
		R3	8.4	21.6	32.6	18.8	11.0	7.7	30.0	29.8	0.2
		R7	7.2	19.8	33.1	19.3	13.9	6.8	27.0	33.2	6.2
	資産	H24	3.0	13.1	37.9	19.1	17.2	9.7	16.1	36.3	20.2
		H29	5.2	15.7	38.5	16.6	14.0	10.0	20.9	30.6	9.7
		R3	6.3	16.8	36.6	17.6	11.5	11.2	23.1	29.1	6.0
		R7	5.7	15.3	38.4	17.1	13.8	9.7	21.0	30.9	9.9
	消費	H24	4.3	23.7	41.1	14.9	6.4	9.7	28.0	21.3	6.7
		H29	5.9	22.1	41.4	13.4	7.3	9.9	28.0	20.7	7.3
		R3	7.4	22.4	38.2	14.2	5.2	12.6	29.8	19.4	10.4
		R7	6.5	21.8	37.5	15.3	8.0	10.9	28.3	23.3	5.0
	物価	H24	1.6	8.5	33.3	26.5	26.6	3.5	10.1	53.1	43.0
		H29	2.4	8.4	34.2	28.3	22.3	4.4	10.8	50.6	39.8
		R3	2.6	8.6	32.3	27.2	22.6	6.6	11.2	49.8	38.6
		R7	0.7	1.9	9.3	24.1	61.9	2.1	2.6	86.0	83.4
所得・消費全般	H24	4.7	24.3	39.8	17.3	10.6	3.4	29.0	27.9	1.1	
	H29	7.4	29.7	38.7	13.9	7.9	2.4	37.1	21.8	15.3	
	R3	9.4	31.8	36.8	12.1	5.6	4.4	41.2	17.7	23.5	
	R7	7.3	28.0	34.0	17.3	9.4	4.0	35.3	26.7	8.6	
子育て・教育	出産・育児	H24									
		H29									
		R3									
		R7	3.9	14.9	26.7	7.7	5.8	40.9	18.8	13.5	5.3
	幼稚園・保育所	H24	7.4	23.3	30.7	6.7	4.7	27.1	30.7	11.4	19.3
		H29	7.7	24.8	29.6	7.0	5.0	25.9	32.5	12.0	20.5
		R3	8.4	21.5	27.2	4.7	2.8	35.4	29.9	7.5	22.4
		R7	6.6	18.1	25.7	6.0	4.6	39.0	24.7	10.6	14.1
	小中の教育	H24	4.8	18.9	30.7	11.8	8.3	25.4	23.7	20.1	3.6
		H29	6.3	22.9	33.3	9.4	4.6	23.5	29.2	14.0	15.2
		R3	6.9	20.3	28.9	6.4	3.8	33.7	27.2	10.2	17.0
		R7	4.8	17.5	28.4	7.9	5.9	35.5	22.3	13.8	8.5
	高等教育の機会	H24	2.5	10.2	33.2	16.6	9.6	27.9	12.7	26.2	13.5
		H29	2.8	13.5	31.8	18.1	8.7	25.1	16.3	26.8	10.5
		R3	5.0	10.8	31.5	11.6	7.0	34.1	15.8	18.6	2.8
		R7	3.5	10.0	29.2	13.9	8.6	34.8	13.5	22.5	9.0
家庭教育	H24	2.6	11.1	39.2	16.4	11.8	18.9	13.7	28.2	14.5	
	H29	3.6	15.3	41.7	13.1	7.1	19.2	18.9	20.2	1.3	
	R3	5.0	16.7	38.3	8.3	3.7	28.1	21.7	12.0	9.7	
	R7	4.8	14.2	35.1	8.5	5.7	31.7	19.0	14.2	4.8	
子育て・教育全般	H24										
	H29										
	R3										
	R7	7.7	24.1	33.1	4.2	1.7	29.2	31.8	5.9	25.9	
文化	生涯学習	H24	2.5	14.9	43.3	11.3	4.6	23.5	17.4	15.9	1.5
		H29	3.4	16.0	42.9	9.7	4.4	23.6	19.4	14.1	5.3
		R3	4.3	13.1	37.0	10.4	5.0	30.2	17.4	15.4	2.0
		R7	3.5	14.3	40.2	9.7	3.7	28.6	17.8	13.4	4.4
	文化施設	H24	4.9	24.0	40.5	8.3	3.2	19.1	28.9	11.5	17.4
		H29	7.2	31.0	31.4	11.0	5.5	13.8	38.2	16.5	21.7
		R3	7.4	32.9	31.5	10.1	5.1	13.0	40.3	15.2	25.1
		R7	8.7	29.7	30.6	9.1	4.3	15.2	38.3	13.9	25.0
	文化財・伝統継承	H24	3.4	21.2	48.2	7.9	2.5	16.8	24.6	10.4	14.2
		H29	4.9	24.0	40.5	8.3	3.2	19.1	28.9	11.5	17.4
		R3	5.1	27.2	40.0	7.6	2.2	17.9	32.3	9.8	22.5
		R7	6.4	20.6	39.6	7.4	2.6	21.5	27.0	10.0	17.0
	文化全般	H24									
		H29									
		R3									
		R7	6.3	18.2	43.5	4.5	2.4	25.0	24.5	6.9	17.6

領域	項目	満足度						満足層	不満層	満足傾向 (+)	不満傾向 (-)
		年度									
		■満足	■どちらともいえない	■不満	■どちらかといえば満足	■どちらかといえば不満	■わからない				
余暇	自由時間	H24	14.4	35.6	26.7	12.9	8.6	1.8	50.0	21.5	28.5
		H29	16.6	36.6	22.4	13.4	9.1	1.9	53.2	22.5	30.7
		R3	21.5	36.6	22.0	10.7	6.2	3.1	58.1	16.9	41.2
		R7	17.8	37.8	23.2	11.3	7.7	2.1	<b>55.6</b>	<b>19.0</b>	<b>36.6</b>
	余暇施設	H24	4.8	19.5	33.6	17.6	9.8	14.8	24.3	27.4	3.1
		H29	5.4	19.9	33.8	16.3	8.9	15.7	25.3	25.2	0.1
		R3	6.0	18.9	32.2	14.5	8.4	19.9	24.9	22.9	2.0
		R7	6.4	17.5	33.0	14.6	7.8	20.7	<b>23.9</b>	<b>22.4</b>	<b>1.5</b>
	娯楽	H24	2.6	18.5	31.0	20.2	15.0	12.7	21.1	35.2	14.1
		H29	4.1	16.4	27.0	23.3	18.4	10.8	20.5	41.7	21.2
		R3	4.5	15.9	28.1	20.8	13.5	17.2	20.4	34.3	13.9
		R7	4.8	16.1	26.3	26.4	16.1	10.3	<b>20.9</b>	<b>42.5</b>	<b>21.6</b>
	余暇情報	H24	2.7	18.9	41.9	15.7	8.3	12.5	21.6	24.0	2.6
		H29	3.8	18.3	39.9	16.4	8.8	12.8	22.1	25.2	3.1
		R3	3.9	14.4	39.5	16.3	7.6	18.3	18.3	23.9	5.6
		R7	4.6	18.2	40.8	15.8	7.7	13.1	<b>22.8</b>	<b>23.5</b>	<b>0.7</b>
	自然と親しむ機会	H24	6.1	27.2	40.6	6.8	2.9	16.4	33.3	9.7	23.6
		H29	8.5	25.8	39.5	6.2	2.0	1.6	34.3	8.2	26.1
		R3	10.6	26.4	35.7	4.9	2.8	19.4	37.0	7.7	29.3
		R7	9.6	27.9	35.0	4.6	1.9	21.1	<b>37.5</b>	<b>6.5</b>	<b>31.0</b>
余暇全般	H24	8.8	36.5	36.6	10.2	3.6	4.4	45.3	13.8	31.5	
	H29	11.0	37.1	34.6	9.4	4.4	3.5	48.1	13.8	34.3	
	R3	14.1	38.1	30.8	8.9	3.3	4.8	52.2	12.2	40.0	
	R7	13.1	40.6	29.6	8.7	4.4	3.6	<b>53.7</b>	<b>13.1</b>	<b>40.6</b>	

福祉・連帯	地域とのつながり	H24	8.0	29.6	41.1	9.0	3.7	8.5	37.6	12.7	24.9
		H29	9.4	28.4	39.8	8.6	4.1	9.7	37.8	12.7	25.1
		R3	8.4	25.1	40.0	8.6	5.2	12.6	33.5	13.8	19.7
		R7	6.1	22.3	42.6	9.6	6.2	13.3	<b>28.4</b>	<b>15.8</b>	<b>12.6</b>
	福祉施策	H24	2.0	13.4	37.4	20.8	12.7	13.7	15.4	33.5	18.1
		H29	3.2	15.5	39.1	17.7	9.8	14.7	18.7	27.5	8.8
		R3	4.4	17.1	37.3	14.3	9.6	17.3	21.5	23.9	2.4
		R7	3.2	12.9	37.6	17.5	10.9	17.9	<b>16.1</b>	<b>28.4</b>	<b>12.3</b>
	福祉・連帯全般	H24	3.4	20.7	40.8	13.8	5.8	15.5	24.1	19.6	4.5
		H29	5.0	22.1	42.4	9.4	5.2	15.9	27.1	14.6	12.5
		R3	5.3	21.8	40.5	8.0	4.7	19.6	27.1	12.7	14.4
		R7	4.4	17.6	41.3	10.8	4.6	21.4	<b>22.0</b>	<b>15.4</b>	<b>6.6</b>

生活全般	H24	6.9	36.0	39.7	10.7	4.3	2.5	42.9	15.0	27.9
	H29	8.9	39.2	37.3	9.1	3.2	2.3	48.1	12.3	35.8
	R3	10.5	43.0	33.9	7.3	2.5	2.8	53.5	9.8	43.7
	R7	10.8	39.2	33.2	9.5	3.8	3.5	<b>50.0</b>	<b>13.3</b>	<b>36.7</b>

※満足層＝「満足」＋「どちらかといえば満足」 不満層＝「どちらかといえば不満」＋「不満」

※満足傾向＝満足層－不満層＞0 不満傾向＝満足層－不満層＜0

※「わからない」は無回答を含む。

※四捨五入の関係から±0.1%異なる場合がある。以下の諸表においても同様である。

## (1) 「生活全般」の満足度

「生活全般」の満足度は、図表1-2-1の最下欄に示されるように、「満足」が10.8%、「どちらかといえば満足」が39.2%である。満足層（「満足」＋「どちらかといえば満足」）の比率は、前回（令和3年度調査）の53.5%を3.5ポイント下回った50.0%である。

また、「どちらかといえば不満」は9.5%、「不満」は3.8%であり、不満層（「どちらかといえば不満」＋「不満」）は、前回の9.8%を上回る13.3%であった。

満足層と不満層の差（満足傾向）は36.7%であり、前回の43.7%を7.0ポイント下回り、30%台となった。

## (2) 「領域全般」の満足度

各領域の「領域全般」について、満足層・不満層、満足傾向・不満傾向を領域間で比較する。

まず、今回の調査で満足層の割合が最も大きい領域となったのは、前々回及び前回から引き続き、「居住環境全般」で58.4%である。次いで、「余暇全般」が53.7%、「安全全般」が48.1%と続いている。前回と比較すると、「余暇全般」、「仕事全般」を除く領域において満足層の割合が減少しており、特に「所得・消費全般」で5.9ポイント減少しているなど、領域全般における県民の満足層の割合は前回調査に比べ縮小している。

一方で、不満層の割合が最も大きい領域は、こちらも前々回、前回と同様、「所得・消費全般」で26.7%である。次いで、「福祉・連帯全般」が15.4%、「仕事」が13.7%と続いている。前回と比較すると、「居住環境全般」を除く領域において不満層の割合が拡大しており、特に「所得・消費全般」で9.0ポイント増加している。

次に、それぞれの「領域全般」に関して、満足傾向・不満傾向の状況について見ていく。

今回の調査では、前回同様、各領域において、満足層が不満層を上回っている満足傾向となっており、その傾向の強い順に示すと、「居住環境全般」の48.1%が最上位となり、次いで、「余暇全般」が40.6%、「安全全般」が36.9%と続いている。なお、「仕事全般」及び「余暇全般」を除く領域において前回よりも満足傾向の比率が減少しており、特に「所得消費全般」で14.9ポイント減少している。

「領域全般」の満足度を総合的に見ると、各領域において、満足層の割合が概ね縮小する一方、不満層の割合が概ね拡大している。

### (3) 「個別項目」の満足度

これまで見てきた「生活全般」及び9つの「領域全般」を除く、36の個別項目の満足度について、次に概観する。

第1に、各項目の満足層・不満層の割合の大小に着目する。

まず、満足層の割合が大きい項目（50%以上）としては、大きい順に、「住宅」（69.1%）、「日常医療」（62.5%）、「自然環境」（59.9%）が挙げられる。なお、「住宅」、「自然環境」、「日常医療」、「ごみ・生活排水」、「自由時間」の5項目は、過去3回の調査においても満足層の割合が50%以上となっている。

これに対して、満足層の割合が小さい項目（20%以下）は、小さい順に「物価」（2.6%）、「高等教育の機会」（13.5%）、「福祉施策」（16.1%）が挙げられる。なお、「物価」、「高等教育の機会」、「生涯学習」の3項目は、前回から引き続き満足層が20%以下となっている。

次に、不満層の割合が大きい項目（50%以上）は、「物価」（86.0%）、「公共交通機関」（54.5%）の2項目であり、前回の調査から1項目増加した。

これに対して、不満層の割合が小さい項目（20%以下）は、小さい順に「自然と親しむ機会」（6.5%）、「検診・相談」（6.7%）、「自然環境」（8.7%）など21項目あり、前回（23項目）から2項目減少している。

第2に、満足傾向・不満傾向の強弱に着目する。

まず、満足傾向（満足層の割合が不満層の割合を上回るもの）が強い項目（30%以上）は、満足傾向（プラス値）の強い順に、「住宅」（58.6%）、「自然環境」（51.2%）、「日常医療」（50.4%）など10項目となった。前回と比較すると、「自然と親しむ機会」の1項目が追加されている。

次に、不満傾向（不満層の割合が満足層の割合を上回るもの）の項目を挙げると、不満傾向（マイナス値）の強い順に、「物価」（83.4%）、「公共交通機関」（36.6%）、「娯楽」（21.6%）など8項目となった。なお、「所得」を除く7項目は、過去3回の調査を含めて一貫して不満傾向にある。

図表 1-2-2 質問項目別満足層・不満層の対前回増減（全県）

区分	「不満層」が減少	「不満層」が増加
「満足層」が増加	○自然災害 ○生涯学習 ○自然と親しむ機会	○ごみ・生活排水 ○住宅 ○自由時間 ○余暇施設
「満足層」が減少	・自然環境 ・文化施設	<input type="checkbox"/> 公園広場等 <input type="checkbox"/> 買い物 <input type="checkbox"/> 労働条件 <input type="checkbox"/> 仕事のやりがい <input type="checkbox"/> 文化財・伝統継承 <input type="checkbox"/> 娯楽  <input checked="" type="checkbox"/> 日常医療 <input checked="" type="checkbox"/> 交通安全 <input checked="" type="checkbox"/> 公共交通機関 <input checked="" type="checkbox"/> 所得 <input checked="" type="checkbox"/> 物価 <input checked="" type="checkbox"/> 高等教育の機会 <input checked="" type="checkbox"/> 地域とのつながり <input checked="" type="checkbox"/> 救急医療 <input checked="" type="checkbox"/> 防犯・防火 <input checked="" type="checkbox"/> 道路 <input checked="" type="checkbox"/> 資産 <input checked="" type="checkbox"/> 幼稚園・保育所 <input checked="" type="checkbox"/> 家庭教育 <input checked="" type="checkbox"/> 福祉施策 <input checked="" type="checkbox"/> 検診・相談 <input checked="" type="checkbox"/> 大気汚染等 <input checked="" type="checkbox"/> 就職の機会 <input checked="" type="checkbox"/> 消費 <input checked="" type="checkbox"/> 小中高の教育 <input checked="" type="checkbox"/> 余暇情報

図表1-2-2の左上の象限（満足層増加・不満層減少）の項目は、満足度水準を引き上げるまたは維持する方向に作用するが、ここには「出産・育児」を除いた全体35項目中の7項目（前回20項目）が属する。一方、右下の象限（満足層減少・不満層増加）の項目は、満足度水準を引き下げる方向に作用するため、今後注視していくべき項目と位置付けられるが、20項目（前回3項目）となっており、全体的に県民満足度は減少傾向にある。

なお、前回、右下の象限に属していた「生涯学習」と「文化財・伝統継承」がそれぞれ左上の象限と右上の象限に移動している。

### 3 「生活全般」の満足度

ここでは、「生活全般」の満足度について、年次別、属性別に更に詳しく見ていくこととする。

#### (1) 全県の年次別推移

この調査は、わが国の経済が第1次オイルショックの影響を受けた昭和49年度に始まり、今回で15回目である。そこで、昭和49年度から令和7年度までの52年間における県民の「生活全般」についての満足度はどのように推移してきたかを図示すると、図表1-3-1のとおりである。

図表1-3-1 「生活全般」の満足度（全県）

(単位：点、%)

年次	満足度得点	満足度					満足傾向	
		■ 満足	■ どちらかといえば満足	■ どちらかといえば不満	■ 不満	■ わからない	(+)	(-)
昭和49年度	35	16.4	38.3	18.7	15.6	10.5	0.5	28.6
昭和52年度	51	16.8	42.6	19.2	12.6	6.7	2.1	40.1
昭和56年度	67	10.0	58.0	21.1	7.6	2.3	0.9	58.1
昭和60年度	67	9.5	58.5	22.2	7.6	1.7	0.5	58.7
平成元年度	73	10.2	61.1	20.8	6.0	1.4	0.5	63.9
平成4年度	34	4.6	42.1	35.0	11.1	3.5	3.7	32.1
平成7年度	37	5.3	42.4	36.8	8.6	4.3	2.8	34.8
平成10年度	35	5.4	42.9	34.3	10.1	4.7	2.6	33.5
平成13年度	40	5.5	45.4	34.3	9.8	3.5	1.5	37.6
平成16年度	36	3.6	44.6	34.7	9.0	3.7	4.2	35.5
平成20年度	29	5.0	39.7	35.4	12.4	4.7	2.7	27.6
平成24年度	31	6.9	36.0	39.7	10.7	4.3	2.5	27.9
平成29年度	42	8.9	39.2	37.3	9.1	3.2	2.3	35.8
令和3年度	53	10.5	43.0	33.9	7.3	2.5	2.8	43.7
令和7年度	45	10.8	39.2	33.2	9.5	3.8	3.5	36.7

※平成元年度までは面接聴取法による調査。平成4年度から平成24年度までは留め置き法による調査。

平成29年度から留め置き法による調査とオンライン調査を併用して実施。

昭和49年度から平成元年度までは、「どちらともいえない」とする中間層の比率が20%前後で、満足層（「満足」＋「どちらかといえば満足」）が少しずつ増え、逆に、不満層（「どちらかといえば不満」＋「不満」）が減るといった形で推移している。この結果、満足度得点は昭和49年度の35点から一貫して増加し続け、平成元年度にはピークとなる73点に達した。これに伴い、この間の満足傾向は28.6%から63.9%へ強まっている。

しかし、バブル経済の崩壊を背景とする平成4年度の調査では、満足層の大幅な縮小、不満層と中間層の拡大という形でその影響が表れ、満足度得点は34点、満足傾向は32.1%と、平成元年度における約半分と大幅に減少した。

その後、平成16年度までは満足度得点が30点台後半から40点の水準で推移していたが、平成20年度には世界的な経済不安定状況、いわゆる「リーマン・ショック」の影響などから、過去最低となる29点まで満足度得点が落ち込む結果となった。続く平成24年度調査では、東日本大震災による社会的な不安も影響し、31点と微増にとどまった。平成29年度調査では、国の経済政策などの影響もあり、平成24年度調査から+11点と大きく増加した。個人の価値観までも変化させたと言われている新型コロナウイルス感染症の感染拡大期に実施された令和3年度調査では、平成29年度調査と同様に+11点と大きく増加していたが、新型コロナウイルス感染症が5類移行後の今回調査では、-8点と減少している。

なお、「どちらともいえない」とする中間層の比率は、昭和49年度から平成元年度まで20%前後であったものが、平成4年度以降概ね35%前後で推移し、今回は33.2%となっており、明らかに傾向が変わっている。これは平成4年度から調査方法が「面接聴取法」から「留め置き法」に変更され、調査員に対して直接回答する必要がなくなったことが、満足・不満の判断を明確にしない誘因のひとつとなったと考えられる。

## (2) 属性別の満足度

次に、地域別、性別、年齢別、職業別、居住年数別、県外居住経験別の属性ごとに、「生活全般」の満足度の状況を整理・分析する。

### ア 地域別による満足度

図表1-3-2は、「生活全般」の満足度について地域別に示した表である。

図表 1-3-2 「生活全般」の満足度（地域別）

(単位：点、%)

地域	満足度 年度	満足度 得点	満足層			どちら ともい えない	不満層			不明	満足 傾向 (+)	不満 傾向 (-)
			満足	どちらか といえば 満足	計		どちらか といえば 不満	不満	計			
全 県	H24	31	6.9	36.0	42.9	39.7	10.7	4.3	15.0	2.5	27.9	
	H29	42	8.9	39.2	48.1	37.3	9.1	3.2	12.3	2.3	35.8	
	R3	53	10.5	43.0	53.5	33.9	7.3	2.5	9.8	2.8	43.7	
	<b>R7</b>	<b>45</b>	<b>10.8</b>	<b>39.2</b>	<b>50.0</b>	<b>33.2</b>	<b>9.5</b>	<b>3.8</b>	<b>13.3</b>	<b>3.5</b>	<b>36.7</b>	
峡中	H24	37	7.8	37.3	45.0	39.4	10.2	3.0	13.2	2.4	31.8	
	H29	46	9.1	41.9	51.0	35.0	8.5	3.2	11.7	2.3	39.3	
	R3	54	11.3	42.9	54.2	33.4	7.2	2.8	10.0	2.4	44.2	
	<b>R7</b>	<b>52</b>	<b>12.1</b>	<b>40.9</b>	<b>53.0</b>	<b>31.0</b>	<b>9.4</b>	<b>2.6</b>	<b>12.0</b>	<b>4.0</b>	<b>41.0</b>	
峡北	H24	30	7.1	37.4	44.5	35.5	12.9	4.5	17.4	2.6	27.1	
	H29	48	9.1	39.2	48.3	44.1	6.3	1.4	7.7	0.0	40.6	
	R3	50	9.9	41.1	51.0	37.6	8.5	1.4	9.9	1.4	41.1	
	<b>R7</b>	<b>36</b>	<b>8.0</b>	<b>39.4</b>	<b>47.4</b>	<b>32.8</b>	<b>10.9</b>	<b>5.1</b>	<b>16.0</b>	<b>3.6</b>	<b>31.4</b>	
峡東	H24	20	4.3	37.6	41.8	36.9	13.5	6.4	19.9	1.4	21.9	
	H29	41	9.4	37.2	46.6	35.4	11.6	2.5	14.1	4.0	32.5	
	R3	60	11.2	43.0	54.2	34.9	5.8	1.2	7.0	3.9	47.2	
	<b>R7</b>	<b>35</b>	<b>9.8</b>	<b>37.1</b>	<b>46.9</b>	<b>34.4</b>	<b>10.7</b>	<b>5.8</b>	<b>16.5</b>	<b>2.2</b>	<b>30.4</b>	
峡南	H24	24	5.2	35.7	40.9	37.4	13.9	4.3	18.3	3.5	22.6	
	H29	45	7.8	44.0	51.7	35.3	6.9	4.3	11.2	1.7	40.5	
	R3	52	8.2	43.9	52.1	37.8	9.2	0.0	9.2	1.0	42.9	
	<b>R7</b>	<b>47</b>	<b>13.6</b>	<b>37.0</b>	<b>50.6</b>	<b>30.9</b>	<b>7.4</b>	<b>6.2</b>	<b>13.6</b>	<b>4.9</b>	<b>37.0</b>	
富士・東部	H24	30	7.4	32.1	39.5	44.4	7.9	4.9	12.8	3.2	26.7	
	H29	34	8.4	34.2	42.6	41.1	9.9	4.1	14.0	2.3	28.6	
	R3	49	9.3	43.9	53.2	31.8	7.6	3.7	11.3	3.7	41.9	
	<b>R7</b>	<b>41</b>	<b>9.2</b>	<b>37.5</b>	<b>46.7</b>	<b>37.8</b>	<b>8.9</b>	<b>3.7</b>	<b>12.6</b>	<b>2.8</b>	<b>34.1</b>	

まず、満足層の割合の大きい地域は、「峡中」が53.0%で最も高く、次いで「峡南」が50.6%、「峡北」が47.4%と続いており、最上位の「峡中」と最下位の「富士・東部」の開きは6.3ポイントである。前回との比較では、すべての地域で満足層が減少している。

一方、不満層の割合の大きい地域は、「峡東」が16.5%で最も高く、次いで「峡北」が16.0%、「峡南」が13.6%と続いており、最上位の「峡東」と最下位の「峡中」の開きは4.5ポイントである。前回との比較では、すべての地域で不満層が拡大している。なお、参考までに、今回と過去3回の調査における満足層と不満層の地域別順位をまとめると、図表1-3-3のとおりである。

図表 1-3-3 満足層・不満層の地域別順位一覧

年度		満足度				
		峡中	峡北	峡東	峡南	富士・東部
満足層	平成24年度	1	2	3	4	5
	平成29年度	2	3	4	1	5
	令和3年度	1	5	1	4	3
	<b>令和7年度</b>	<b>1</b>	<b>3</b>	<b>4</b>	<b>2</b>	<b>5</b>
不満層	平成24年度	2	3	5	4	1
	平成29年度	3	1	5	2	4
	令和3年度	4	3	1	2	5
	<b>令和7年度</b>	<b>1</b>	<b>4</b>	<b>5</b>	<b>3</b>	<b>2</b>

※満足層は%の高い順、不満層は%の低い順。

次に、満足度得点を見ると、「峡中」が52点で最も高く、次いで「峡南」が47点、「富士・東部」が41点と続いており、最上位の「峡中」と最下位の「峡東」の開きは17点である。前回との比較では、すべての地域で満足度得点が減少しており、中でも「峡東」（-25点）、「峡北」（-14点）で大きく減少している。

最後に、満足傾向・不満傾向を見ると、すべての地域において満足傾向となっている。

## イ 性別による満足度

図表1-3-4は、性別で見た「生活全般」の満足度を示した表である。

図表 1-3-4 「生活全般」の満足度（性別）

性別	年度	満足度 得点	満足層			どちら ともい えない	不満層			不明	満足 傾向 (+)	不 満 傾 向 (-)
			満足	どちらか といえば 満足	計		どちらか といえば 不満	不満	計			
男 性	H24	30	6.5	35.5	42.0	40.9	11.1	4.1	15.2	2.0	26.8	
	H29	37	7.1	38.7	45.8	39.3	10.2	3.3	13.5	1.5	32.4	
	R3	52	9.8	42.4	52.2	34.9	7.5	2.2	9.7	3.3	42.5	
	R7	<b>44</b>	<b>11.5</b>	<b>38.8</b>	<b>50.3</b>	<b>31.1</b>	<b>10.5</b>	<b>4.4</b>	<b>14.9</b>	<b>3.6</b>	<b>35.4</b>	
女 性	H24	33	7.3	36.6	43.9	38.2	10.2	4.5	14.7	3.1	29.2	
	H29	49	10.8	39.7	50.5	35.2	7.9	3.1	11.0	3.3	39.5	
	R3	55	11.2	44.2	55.4	32.8	7.0	2.6	9.6	2.1	45.8	
	R7	<b>48</b>	<b>10.4</b>	<b>39.9</b>	<b>50.3</b>	<b>35.0</b>	<b>8.3</b>	<b>3.1</b>	<b>11.4</b>	<b>3.3</b>	<b>38.9</b>	
回答し ない R3では 「その 他」	H24	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
	H29	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
	R3	40	20.0	0.0	20.0	80.0	0.0	0.0	0.0	0.0	20.0	
	R7	<b>4</b>	<b>3.6</b>	<b>28.6</b>	<b>32.2</b>	<b>39.3</b>	<b>17.9</b>	<b>7.1</b>	<b>25.0</b>	<b>3.6</b>	<b>7.2</b>	

※令和3年度調査から「その他」を追加。令和7年度調査から「回答しない」に変更。

まず、満足層の割合について見ると、「男性」、「女性」ともに50.3%と同じ割合となっている。一方、不満層の割合は、「男性」の14.9%に対して「女性」は11.4%と、「男性」の方が3.5ポイント大きくなっている。また、満足度得点及び満足傾向は、「女性」の方が「男性」よりも満足度水準が高くなっている。

前回との結果までは、「男性」、「女性」ともに満足度得点、満足層、満足傾向は増加傾向にあったが、今回から減少に転じている。

## ウ 年齢別による満足度

10歳階級による年齢別の「生活全般」の満足度は、図表1-3-5のとおりである（18～19歳は標本数が1%未満のため参考値とする。）。

図表 1-3-5 「生活全般」の満足度（年齢別）

（単位：点、％）

年齢	年度	満足度 満足度 得点	満足層			どちら ともい えない	不満層			不明	満足 傾向 (+)	不満 傾向 (-)
			満足	どちらか といえば 満足	計		どちらか といえば 不満	不満	計			
18 ～19歳	H24	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	H29	82	17.5	52.5	70.0	22.5	2.5	2.5	5.0	2.5	65.0	
	R3	113	31.7	43.9	75.6	19.5	0.0	0.0	0.0	4.9	75.6	
	R7	140	50.0	40.0	90.0	10.0	0.0	0.0	0.0	0.0	90.0	
20 ～29歳	H24	34	7.5	35.4	42.9	38.5	13.7	1.9	15.5	3.1	27.3	
	H29	32	7.9	35.6	43.6	38.6	10.9	4.5	15.3	2.5	28.2	
	R3	86	26.8	38.7	65.5	24.6	4.9	2.1	7.0	2.8	58.5	
	R7	60	17.0	40.0	57.0	29.1	7.9	3.6	11.5	2.4	45.5	
30 ～39歳	H24	31	5.4	41.6	47.0	34.4	11.3	5.4	16.7	1.8	30.3	
	H29	32	9.5	32.9	42.3	39.6	11.3	4.5	15.8	2.3	26.6	
	R3	49	13.5	35.7	49.2	36.2	9.7	2.7	12.4	2.2	36.8	
	R7	39	8.8	41.0	49.8	33.2	7.3	6.8	14.1	2.9	35.7	
40 ～49歳	H24	31	5.8	35.3	41.1	44.5	10.4	2.8	13.2	1.2	27.9	
	H29	39	6.5	40.2	46.7	38.8	9.6	2.7	12.4	2.1	34.4	
	R3	43	6.0	42.2	48.2	39.4	9.2	1.6	10.8	1.6	37.4	
	R7	39	10.6	38.2	48.8	33.5	12.6	3.9	16.5	1.2	32.3	
50 ～59歳	H24	17	6.1	30.9	37.0	41.1	14.6	5.8	20.4	1.5	16.6	
	H29	41	7.2	41.0	48.1	37.2	10.6	2.0	12.6	2.0	35.5	
	R3	46	7.7	44.7	52.4	35.2	7.7	3.3	11.0	1.5	41.4	
	R7	35	7.9	37.9	45.8	34.5	12.1	4.1	16.2	3.4	29.6	
60 ～69歳	H24	37	7.6	37.7	45.3	39.5	9.9	3.4	13.3	1.8	32.0	
	H29	33	5.6	38.5	44.1	40.5	8.9	4.4	13.3	2.1	30.8	
	R3	44	6.0	43.3	49.3	39.6	5.6	3.4	9.0	2.2	40.3	
	R7	39	8.6	38.3	46.9	35.5	10.5	3.5	14.0	3.5	32.9	
70歳 以上	H24	41	8.9	36.7	45.6	37.4	5.0	5.7	10.7	6.4	34.9	
	H29	70	16.5	42.7	59.2	31.1	4.9	1.5	6.4	3.4	52.8	
	R3	56	9.1	47.1	56.2	30.0	7.3	2.1	9.4	4.4	46.8	
	R7	60	12.4	40.6	53.0	32.7	6.0	1.5	7.5	6.8	45.5	

※平成29年度調査から「18～19歳」の年齢層を追加。

まず、満足層の割合について見ると、「20代」が57.0%で最も高く、次いで「70歳以上」が53.0%、「30代」が49.8%と続いている。一方、不満層の割合を見ると、「40代」が16.5%で最も高く、次いで「50代」が16.2%、「30代」が14.1%と続いている。

前回との比較では、満足層の割合は「30代」及び「40代」で若干の増加はあるものの、どの年代も概ね減少している。また、不満層の割合は、「70歳以上」を除き、すべての年齢層で増加している。

次に、満足度得点について見ると、「20代」及び「70歳以上」が60点で最も高く、次いで「30代」及び「40代」及び「60代」が39点、「50代」が35点と続いている。

前回との比較では、概ねすべての年代で減少しており、その中でも「20代」の満足度得点は26点減少しており、減少幅が大きくなっている。

## エ 職業別による満足度

本調査における「職業別」とは、「自営業・家族従業者」（農林水産業、商工・サービス業、自由業）、「勤め人」（民間企業従業員、公務員など）、「その他」（学生、パート勤務を含む主婦・主夫、その他）をいう。職業別の「生活全般」の満足度は、図表1-3-6のとおりである。

図表 1-3-6 「生活全般」の満足度（職業別）

(単位：点、%)

職業	年度	満足度 満足度 得点	満足層			どちら ともい えない	不満層			不明	満足 傾向 (+)	不満 傾向 (-)
			満足	どちらか といえば 満足	計		どちらか といえば 不満	不満	計			
自営業・家族従業者	H24	35	8.0	37.6	45.6	37.8	8.6	5.5	14.1	2.5	31.5	
	H29	44	7.9	41.4	49.3	36.1	8.6	3.0	11.6	3.0	37.7	
	R3	50	9.9	43.1	53.0	32.3	8.9	2.9	11.8	2.9	41.2	
	R7	<b>48</b>	<b>11.5</b>	<b>39.0</b>	<b>50.5</b>	<b>34.9</b>	<b>8.8</b>	<b>3.4</b>	<b>12.2</b>	<b>2.4</b>	<b>38.3</b>	
勤め人	H24	27	5.7	35.3	41.0	41.3	12.6	3.7	16.3	1.5	24.7	
	H29	35	6.3	38.7	45.0	39.5	10.9	3.2	14.1	1.4	31.0	
	R3	51	9.4	43.5	52.9	34.6	8.2	2.2	10.4	2.0	42.5	
	R7	<b>41</b>	<b>8.8</b>	<b>42.9</b>	<b>51.7</b>	<b>30.5</b>	<b>11.6</b>	<b>4.4</b>	<b>16.0</b>	<b>1.9</b>	<b>35.7</b>	
その他	H24	34	7.4	35.9	43.3	39.1	10.0	4.1	14.1	3.4	29.2	
	H29	49	11.6	38.4	50.0	36.0	7.6	3.4	11.0	3.0	39.0	
	R3	58	12.0	43.0	55.0	34.1	5.5	2.4	7.9	3.0	47.1	
	R7	<b>48</b>	<b>11.9</b>	<b>37.0</b>	<b>48.9</b>	<b>34.2</b>	<b>8.1</b>	<b>3.6</b>	<b>11.7</b>	<b>5.3</b>	<b>37.2</b>	

職業ごとの満足度得点、満足傾向を比較すると、「勤め人」は他の職業と比べて、満足度得点及び満足傾向が低い結果となった。

前回との比較では、満足度得点、満足層の割合、満足傾向すべてにおいて減少している。

## オ 居住年数別及び県外居住経験別による満足度

図表1-3-7では、回答者の本県における居住年数を「5年未満」「5～10年未満」「10～20年未満」「20年以上」に区分し、また、県外での居住経験の「あり」「なし」で分け、それぞれの満足度を示している。

図表1-3-7 「生活全般」の満足度（居住年数別・県外居住経験別）

（単位：点、％）

年数	年度	満足度 満足度 得点	満足層			どちら ともい えない	不満層			不明	満足 傾向 (+)	不 満 傾向 (-)
			満足	どちらか といえば 満足	計		どちらか といえば 不満	不満	計			
5年 未満	H24	14	8.6	28.6	37.2	42.9	8.6	11.4	20.0	—	17.2	
	H29	43	7.1	46.4	53.6	32.1	10.7	3.6	14.3	—	39.3	
	R3	83	25.4	35.2	60.6	32.4	2.8	1.4	4.2	2.8	56.4	
	<b>R7</b>	<b>69</b>	<b>17.0</b>	<b>46.6</b>	<b>63.6</b>	<b>23.9</b>	<b>6.8</b>	<b>3.4</b>	<b>10.2</b>	<b>2.3</b>	<b>53.4</b>	
5～10 年未満	H24	46	11.4	42.9	54.3	28.6	14.3	2.9	17.2	—	37.1	
	H29	56	6.7	44.4	51.1	42.2	0.0	2.2	2.2	4.4	48.9	
	R3	50	11.1	38.9	50.0	41.7	5.6	2.8	8.4	<b>0.0</b>	41.6	
	<b>R7</b>	<b>24</b>	<b>6.0</b>	<b>35.1</b>	<b>41.1</b>	<b>36.6</b>	<b>13.4</b>	<b>5.2</b>	<b>18.6</b>	<b>3.7</b>	<b>22.5</b>	
10～20 年未満	H24	28	12.4	25.6	38.0	41.3	11.6	5.8	17.4	3.3	20.6	
	H29	52	9.5	44.6	54.2	33.9	7.1	3.0	10.1	1.8	44.0	
	R3	62	16.4	41.1	57.5	29.5	4.8	4.8	9.6	3.4	47.9	
	<b>R7</b>	<b>33</b>	<b>6.3</b>	<b>29.7</b>	<b>36.0</b>	<b>43.8</b>	<b>6.3</b>	<b>3.1</b>	<b>9.4</b>	<b>10.9</b>	<b>26.6</b>	
20年 以上	H24	32	6.3	36.8	43.1	39.7	10.6	4.0	14.6	2.6	28.5	
	H29	41	8.9	38.1	47.1	37.7	9.6	3.3	12.8	2.4	34.2	
	R3	51	9.1	43.9	53.0	34.3	7.7	2.3	10.0	2.7	43.0	
	<b>R7</b>	<b>44</b>	<b>10.4</b>	<b>39.7</b>	<b>50.1</b>	<b>32.8</b>	<b>10.1</b>	<b>3.9</b>	<b>14.0</b>	<b>3.1</b>	<b>36.1</b>	
県外 居住 経験	あり	H24	34	7.9	35.1	43.0	40.5	10.3	4.0	14.3	2.3	28.7
		H29	43	8.2	41.4	49.6	36.5	9.3	3.2	12.5	1.5	37.1
		R3	51	9.4	44.6	54.0	33.8	7.3	2.9	10.2	2.0	43.8
		<b>R7</b>	<b>30</b>	<b>5.4</b>	<b>38.8</b>	<b>44.2</b>	<b>36.7</b>	<b>11.7</b>	<b>4.3</b>	<b>16.0</b>	<b>3.1</b>	<b>28.2</b>
	なし	H24	29	5.8	36.9	42.7	38.8	11.1	4.6	15.7	2.8	27.0
		H29	42	9.6	36.6	46.2	38.3	8.9	3.2	12.2	3.4	34.0
		R3	56	11.8	42.1	53.9	33.8	7.2	1.9	9.1	3.3	44.8
		<b>R7</b>	<b>39</b>	<b>10.2</b>	<b>36.2</b>	<b>46.4</b>	<b>35.1</b>	<b>9.8</b>	<b>4.7</b>	<b>14.5</b>	<b>4.0</b>	<b>31.9</b>

まず、満足層の割合は、「5年未満」が63.6%で最も高く、次いで「20年以上」が50.1%、「5～10年未満」が41.1%と続いている。同様に、不満層の割合は、「5～10年未満」が18.6%で最も高く、次いで「20年以上」が14.0%、「5年未満」が10.2%と続いている。

なお、満足度得点については、すべての居住年数層において減少している。

前回との比較では、「10～20年未満」が－29点で最も大きく減少し、次いで「5～10年未満」が－26点となっている。満足傾向も同様に、それぞれ21.3ポイント、19.1ポイント減少している。

次に、県外での「居住経験あり」「居住経験なし」の区分による満足度得点について前回と比較すると、「居住経験あり」（－21点）、「居住経験なし」（－17点）とどちらも大幅に減少している。

## カ まとめ

以上、過去3回の調査結果も含めて属性別の満足度について見てきたが、これらは次のとおり要約される。

第1に、地域別で見た場合、すべての地域で満足層及び満足度得点は減少しており、中でも「峡東」（-25点）、「峡北」（-14点）で大きく減少している。

第2に、性別で見た場合、満足度得点及び満足傾向は、「女性」の方が「男性」よりも満足度水準が高くなっている。前回の結果までは、「男性」、「女性」ともに満足度得点、満足層、満足傾向は増加傾向にあったが、今回から減少に転じている。

第3に、年齢別で見た場合、「20代」及び「70歳以上」の満足層及び満足度得点が高くなっている一方、「40代」及び「50代」で低くなっている。

前回との比較では、満足層の割合は「30代」及び「40代」で若干の増加はあるものの、満足層及び満足度得点は概ねすべての年代で減少しており、その中でも「20代」の満足度得点は26点減少しており、減少幅が大きくなっている。

第4に、職業別で見た場合、職業ごとの満足度得点、満足傾向を比較すると、「勤め人」は他の職業と比べて、満足度得点及び満足傾向が低い結果となった。

前回との比較では、満足度得点、満足層の割合、満足傾向すべてにおいて減少している。

第5に、県内への居住年数別及び県外居住経験別で見た場合、すべての居住年数層において満足度得点が減少している。また、県外における「居住経験あり」「居住経験なし」においても、どちらも満足度得点が同程度に減少していることから、これらの区分においても満足度水準の傾向に明確な違いを確認することはできなかった。

## 4 「領域全般」の満足度

ここでは、図表1-1-1の左欄に示す「健康」「安全」「居住環境」「仕事」「所得・消費」「子育て・教育」「文化」「余暇」「福祉・連帯」の9領域について、満足度得点を用いた「領域全般」ごとの満足度の状況及び推移を見ていくこととする。

### (1) 地域別・領域全般別の満足度得点

図表1-4-1 満足度得点（地域別・領域全般別）

(単位：点)

領域	地域	年度	全県	峡中	峡北	峡東	峡南	富士・東部	最高値	最低値	最高と最低差	差幅動向
健康		H24	31	38	23	43	26	12	43	12	31	+17
		H29	43	51	23	50	41	31	51	23	28	
		R3	55	59	48	60	58	45	60	45	15	
		R7	46	57	25	48	53	27	57	25	32	
安全		H24	33	37	34	40	6	26	40	6	34	+1
		H29	45	50	43	39	35	44	50	35	15	
		R3	52	54	53	52	43	48	54	43	11	
		R7	48	52	51	47	40	42	52	40	12	
居住環境		H24	46	57	27	49	26	37	57	26	31	±0
		H29	54	61	55	56	38	44	61	38	23	
		R3	65	75	56	60	52	56	75	52	23	
		R7	63	77	47	53	45	51	77	45	32	
仕事		H24	33	34	22	36	40	33	40	22	18	+11
		H29	37	44	30	31	55	28	55	28	27	
		R3	50	45	45	58	48	56	58	45	13	
		R7	45	55	34	46	42	31	55	31	24	
所得・消費		H24	-5	1	-14	-11	-7	-7	1	-14	15	+7
		H29	15	18	28	12	4	11	28	4	24	
		R3	29	32	32	28	25	22	32	22	10	
		R7	7	13	6	2	-4	0	13	-4	17	
子育て・教育		H24										+25
		H29										
		R3										
		R7	45	48	39	44	63	38	63	38	25	
文化		H24										+16
		H29										
		R3										
		R7	29	35	23	28	20	19	35	19	16	
余暇		H24	38	43	32	36	27	37	43	27	16	+20
		H29	42	46	58	36	51	30	58	30	28	
		R3	53	52	56	58	62	49	62	49	13	
		R7	51	60	51	47	27	42	60	27	33	
福祉・連帯		H24	3	1	-4	6	20	0	20	-4	24	-22
		H29	14	14	7	13	39	11	39	7	32	
		R3	19	20	5	18	46	13	46	5	41	
		R7	8	6	5	16	24	5	24	5	19	

※色付きは最高点の地域（濃い色）と最低点の地域（薄い色）を示す。

※「差幅動向」欄で、+値は前回よりも地域間格差が拡大、-値は縮小の傾向を示す。

※「子育て・教育」及び「文化」は、令和3年度までは「教育・文化」となっており、令和7年度から設問を分けたため、過去の数値なし。

「全県」における各領域全般の5段階評価による満足度の割合及び満足層、不満層、満足傾向、不満傾向については、先の図表1-2-1のとおりであるが、図表1-4-1では、所定の算式（図表1-1-2）にしたがって得点化し、各領域全般において調査年度別、地域別に示した。

まず、「全県」において満足度得点の高い順にその領域を挙げると、「居住環境」が63点で最も高く、次いで「余暇」が51点、「安全」が48点と続いている。

前回順位と比べると、前回1位「居住環境」は今回変わらず、前回3位「余暇」が今回2位に上がった一方、前回2位「健康」が今回4位へと順位を下げている。

前回との得点比較では、すべての領域で減少しており、「所得・消費」が-22点で点数の開きが最も大きく、次いで「福祉・連帯」が-11点、「健康」が-9点と続いている。

次に、地域間で得点の開きが最も大きい領域は「余暇」であり、最上位（「峡中」60点）と最下位（「峡南」27点）の開きは33点で、前回（13点）から20点増加している。一方、最も開きの小さい領域は「安全」で、最上位（「峡中」52点）と最下位（「峡南」40点）の開きは12点で、前回（11点）から1点増加している。

## （2）地域別・領域全般別の満足度得点の対前回増減

次に、全県及び各地域における各領域全般の満足度得点の前回からの変化について、さらに詳しく見てみる。図表1-4-2は、先の図表1-4-1に基づき、満足度得点の増減の度合いを示した一覧表である。なお、「子育て・教育」及び「文化」領域については、領域を再編成したため、前回比較の対象外としている。

図表1-4-2 満足度得点对前回増減（地域別・領域全般別）

(単位：点)

領域 \ 地域	全県	峡中	峡北	峡東	峡南	富士・東部	増点地域数	減点地域数
健康	-9	-2	-23	-12	-5	-18	0 (0)	5 (2)
安全	-4	-2	-2	-5	-3	-6	0 (0)	5 (0)
居住環境	-2	2	-9	-7	-7	-5	1 (0)	4 (0)
仕事	-5	10	-11	-12	-6	-25	1 (0)	4 (1)
所得・消費	-22	-19	-26	-26	-29	-22	0 (0)	5 (5)
子育て・教育								
文化								
余暇	-2	8	-5	-11	-35	-7	1 (0)	4 (1)
福祉・連帯	-11	-14	0	-2	-22	-8	0 (0)	4 (1)
増点領域数		3 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	3 (0)	
減点領域数		4 (1)	6 (2)	7 (1)	7 (3)	7 (3)		31 (10)

増減点＝前回の得点－今回の得点

は最高点の圏域と最低点の圏域。

( )内は15点以上の増減の地域数、領域数

「全県」ではすべての領域で満足度得点が減少しており、地域別における減点領域数が増点領域数を上回っている。全体で35の地域・領域の区分中（5地域×7領域）、増加している地域・領域数は3、減点となった地域・領域数は31、変わらなかった地域・領域数は1である。また、15点以上の増減があった地域・領域数については、図表1-4-2において( )内に示されるように、減点が10地域・領域である一方、増加した地域・領域はなかった。

地域別で見ると、「峡東」「峡南」「富士・東部」ではすべての領域で減少している。「峡北」は6つの領域、「峡中」では3つの領域で減少している。また、領域別では、「健康」「安全」「所得・消費」はすべての地域で減少した。なお、図表1-4-1、図表1-4-2から各地域及び各領域における満足度得点の特徴を見ると、次のとおりである。

#### 〔地域別〕

峡中……………「健康」（57点）、「安全」（52点）、「居住環境」（77点）、「仕事」（55点）、「所得・消費」（13点）、「文化」（35点）、「余暇」（60点）において、最上位となっている。特に「居住環境」は過去3回の調査を含めて一貫して最上位となっており、最下位となっている領域はなかった。前回との比較では、特に「仕事」（+10点）で大きく増加している。

峡北……………最上位となった項目はない一方、「健康」（25点）、「福祉・連帯」（5点）では最下位となっている。前回との比較では「所得・消費」と「健康」で大きく減少している。

峡東……………最上位となった項目はなかった。また、最下位の項目もなかった。前回と比較すると、「所得・消費」（-26点）で大きく減少している。

峡南……………「福祉・連帯」（24点）は過去3回を含めて一貫して最上位となったほか、「子育て・教育」（63点）も最上位となっている。一方、「安全」（40点）、「居住環境」（45点）、「所得・消費」（-4点）、「余暇」（27点）で最下位となっている。前回との比較では、「余暇」（-35点）で大きく減少している。

富士・東部…最上位の項目がない一方、「仕事」（31点）、「子育て・教育」（38点）、「文化」（19点）、「福祉・連帯」（5点）で最下位となっている。前回との比較では、特に「仕事」（-25点）で大きく減少している。他の地域と比較して満足度水準が低い状況にある。

#### 〔領域別〕

健康……………最上位（「峡中」57点）と最下位（「峡北」25点）の開きは32点と前回（15点）から拡大している。前回との比較では、すべての地域で減少している。

安全……………最上位（「峡中」52点）と最下位（「峡南」40点）の開きは12点と前回（11点）から拡大している。前回との比較では、すべての地域で減少している。

居住環境……最上位（「峡中」77点）と最下位（「峡南」45点）の開きは32点と前回（23点）から拡大している。前回との比較では、「峡中」を除くすべての地域で減少している。

仕事……最上位（「峡中」55点）と最下位（「富士・東部」31点）の開きは24点と前回（13点）から拡大している。前回との比較では、地域によってばらつきのある領域となった。

所得・消費……最上位（「峡中」13点）と最下位（「峡南」－4点）の開きは17点と前回（10点）から拡大している。前回との比較では、すべての地域で減少している。

子育て・教育……最上位（「峡南」63点）と最下位（「富士・東部」38点）の開きは25点となっている。

文化……最上位（「峡中」35点）と最下位（「富士・東部」19点）の開きは16点となっている。

余暇……最上位（「峡中」60点）と最下位（「峡南」27点）の開きは33点と前回（13点）から拡大している。前回との比較では、地域によってばらつきのある領域となった。

福祉・連帯……最上位（「峡南」24点）と最下位（「峡北」及び「富士・東部」5点）の開きは19点と前回（41点）から縮小している。前回との比較では、地域によってばらつきのある領域となった。

### (3) 属性別・領域全般別の満足度得点

次に、性別、年齢別、県外居住経験別による満足度得点とその傾向を見ていく。

#### ア 性別・領域全般別の満足度得点

図表1-4-3は、各領域全般の満足度得点を性別で整理したものである。その得点を比較すると、今回、「男性」と「女性」の得点差が2桁ある領域は見られなかった。

前回との比較では、「女性」の「余暇」でプラスになった以外、すべての領域で減少または変化がなかった。とりわけ「所得・消費」において「男性」は-19点、「女性」は-23点と大きく減少している。

図表1-4-3 満足度得点（性別・領域全般別）

(単位：点)

領域	性別 年度	男 性	女 性	その他	男女 得 点 差	対前回増減	
						男 性	女 性
健 康	H24	29	32		3	- 8	- 9
	H29	40	47		7		
	R3	54	56	100	2		
	R7	46	47	15	1 (-1)		
安 全	H24	35	30		5	- 2	- 4
	H29	44	47		3		
	R3	53	51	25	2		
	R7	51	47	12	4 (+2)		
居住環境	H24	44	48		4	- 3	± 0
	H29	50	59		9		
	R3	66	65	100	1		
	R7	63	65	14	2 (+1)		
仕 事	H24	33	34		1	- 2	- 8
	H29	33	43		10		
	R3	50	51	-75	1		
	R7	48	43	32	5 (+4)		
所得・消費	H24	-5	-5		0	- 19	- 23
	H29	9	22		13		
	R3	27	30	25	3		
	R7	8	7	-15	1 (-2)		
子育て・教育	H24						
	H29						
	R3						
	R7	49	43	10	6 (+6)		
文 化	H24						
	H29						
	R3						
	R7	25	34	-14	9 (+9)		
余 暇	H24	39	37		2	- 6	+ 5
	H29	43	41		2		
	R3	31	29	25	2		
	R7	25	34	-14	9 (+7)		
福祉・連帯	H24	3	2		1	± 0	- 2
	H29	12	17		5		
	R3	56	51	-25	5 (±0)		
	R7	56	49	-11	7 (+2)		

※「得点差」欄の（ ）内で、+値は前回よりも男女間格差が拡大、-値は縮小の傾向を示す。

## イ 年齢別・領域全般別の満足度得点

図表1-4-4は、年齢別の満足度得点を示したものである。前回との比較を踏まえて概観すると、次のとおりである。

図表1-4-4 満足度得点（年齢別・領域全般別）

(単位：点)

領域	年齢	年度	18～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上	最高値	最低値	最高と最低差
健康		H24	—	31	15	20	16	47	49	+ 49	+ 15	34
		H29	111	50	20	32	34	41	70	+ 70	+ 20	50
		R3	106	82	49	36	49	45	66	+ 32	- 4	16
		<b>R7</b>	<b>133</b>	<b>65</b>	<b>34</b>	<b>40</b>	<b>28</b>	<b>42</b>	<b>69</b>	<b>+ 133</b>	<b>+ 28</b>	<b>105</b>
		差	27	-17	-15	4	-21	-3	3	+ 4	- 21	(+ 89)
安全		H24	—	36	31	26	17	46	41	+ 46	+ 17	29
		H29	100	55	33	34	35	43	66	+ 66	+ 33	33
		R3	92	82	49	31	49	44	59	+ 27	- 7	34
		<b>R7</b>	<b>150</b>	<b>73</b>	<b>43</b>	<b>36</b>	<b>34</b>	<b>43</b>	<b>64</b>	<b>+ 150</b>	<b>+ 34</b>	<b>116</b>
		差	58	-9	-6	5	-15	-1	5	+ 5	- 15	(+ 82)
居住環境		H24	—	29	46	50	35	59	47	+ 59	+ 29	30
		H29	86	51	47	46	54	48	73	+ 73	+ 46	27
		R3	87	90	69	58	63	55	67	+ 39	- 6	45
		<b>R7</b>	<b>110</b>	<b>76</b>	<b>63</b>	<b>65</b>	<b>57</b>	<b>50</b>	<b>71</b>	<b>+ 110</b>	<b>+ 50</b>	<b>60</b>
		差	23	-14	-6	7	-6	-5	4	+ 7	- 14	(+ 15)
仕事		H24	—	28	30	37	26	40	39	+ 40	+ 26	14
		H29	38	17	29	40	38	41	61	+ 61	+ 17	44
		R3	100	58	47	39	49	49	61	+ 41	- 1	42
		<b>R7</b>	<b>50</b>	<b>31</b>	<b>38</b>	<b>49</b>	<b>38</b>	<b>55</b>	<b>65</b>	<b>+ 65</b>	<b>+ 31</b>	<b>34</b>
		差	-50	-27	-9	10	-11	6	4	+ 10	- 27	(- 8)
所得・消費		H24	—	25	12	-3	-15	-14	-13	+ 25	- 15	40
		H29	78	27	24	8	15	-2	21	+ 27	- 2	29
		R3	106	67	31	26	21	16	23	+ 40	+ 2	38
		<b>R7</b>	<b>130</b>	<b>50</b>	<b>9</b>	<b>5</b>	<b>-1</b>	<b>-15</b>	<b>5</b>	<b>+ 130</b>	<b>- 15</b>	<b>145</b>
		差	24	-17	-22	-21	-22	-31	-18	- 17	- 31	(+ 107)
子育て・教育		H24										
		H29										
		R3										
		<b>R7</b>	<b>180</b>	<b>71</b>	<b>38</b>	<b>42</b>	<b>38</b>	<b>38</b>	<b>49</b>	<b>+ 180</b>	<b>+ 38</b>	<b>142</b>
		差										
文化		H24										
		H29										
		R3										
		<b>R7</b>	<b>89</b>	<b>54</b>	<b>35</b>	<b>29</b>	<b>22</b>	<b>17</b>	<b>26</b>	<b>+ 89</b>	<b>+ 17</b>	<b>72</b>
		差										
余暇		H24	—	43	37	26	23	51	53	+ 53	+ 23	30
		H29	83	30	37	32	34	38	78	+ 78	+ 30	48
		R3	100	96	47	30	46	40	65	+ 66	- 13	79
		<b>R7</b>	<b>120</b>	<b>75</b>	<b>46</b>	<b>42</b>	<b>40</b>	<b>49</b>	<b>63</b>	<b>+ 120</b>	<b>+ 40</b>	<b>80</b>
		差	20	-21	-1	12	-6	9	-2	+ 12	- 21	(+ 1)
福祉・連帯		H24	—	4	-3	2	-6	1	19	+ 19	- 6	25
		H29	100	16	2	5	16	-3	41	+ 41	- 3	44
		R3	41	57	7	7	13	14	25	+ 0	+ 0	50
		<b>R7</b>	<b>100</b>	<b>33</b>	<b>-1</b>	<b>5</b>	<b>-6</b>	<b>0</b>	<b>24</b>	<b>+ 100</b>	<b>- 6</b>	<b>106</b>
		差	59	-24	-8	-2	-19	-14	-1	- 1	- 24	(+ 56)

「18～19歳」については前々回調査から追加された年齢層であり、図表1-4-4の最右欄にある「最高と最低差」の経年比較においては、他の年齢層と比べて数が少ないことから、前回同様この年齢層を除外して行うこととする。

第1に、年齢別で見ると、「20代」は「健康」と「仕事」を除く7領域で次点となるなど比較的満足度水準の高い年齢層となった。一方、「50代」は4領域で最下位となるなどすべての年齢層の中で最も最下位領域が多くなっており、「60代」も3領域で最下位となっている。

第2に、領域別で見ると、「健康」及び「安全」は「20代」、「70歳以上」が上位となっているが、どちらも「50代」が最下位となっている。「居住環境」は「20代」、「70代」の得点が比較的高く、それ以外の年齢層でも他の領域より高い水準の満足度得点となっている。「仕事」は「70歳以上」の得点が最上位となり、次いで「60代」が続いている一方、「20代」が最下位となっている。「所得・消費」及び「文化」は「20代」の得点が比較的高くなっている一方、「60代」が最下位となっている。「子育て・教育」も同様に、「20代」の得点が比較的高くなっているが、他の年齢層は比較的低下水準となっている。「余暇」においても、「20代」の得点が比較的高い一方、「50代」が最下位となっている。「福祉・連帯」では「20代」の得点が比較的高くなっているが、他の年齢層では低下水準となっている。

第3に、前回との比較で見ると、「20代」「30代」「50代」ではすべての領域で、「60代」では5領域で、「70歳以上」では4領域で、「40代」では2領域で減少となっているなど、年齢層で傾向の違いが確認できる。

第4に、領域ごとに年齢層間における最高と最低の得点差に着目して見ると、「仕事」（-8点）を除く他の領域において得点差が拡大しており、「所得・消費」で+107点、「健康」で+89点、「安全」で+82点、「福祉・連帯」で+56点、「居住環境」で+15点、「余暇」で+1点となっている。

## ウ 県外居住経験別・領域全般別の満足度得点

図表1-4-5は、県外居住経験別による各領域の満足度得点を示したものである。

図表1-4-5 満足度得点（県外居住経験別・領域全般別）

(単位：点)

属性 領域	年度	県外居住経験		得点差	対前回増減	
		あり	なし		あり	なし
健康	H24	27	34	7	- 5	- 14
	H29	39	48	9		
	R3	50	60	10		
	<b>R7</b>	<b>45</b>	<b>46</b>	<b>1 (- 9)</b>		
安全	H24	35	30	5	+ 8	- 16
	H29	42	50	8		
	R3	45	59	14		
	<b>R7</b>	<b>53</b>	<b>43</b>	<b>10 (- 4)</b>		
居住環境	H24	45	47	2	+ 5	- 11
	H29	39	48	9		
	R3	61	70	9		
	<b>R7</b>	<b>66</b>	<b>59</b>	<b>7 (- 2)</b>		
仕事	H24	37	30	7	+ 2	- 13
	H29	42	33	9		
	R3	50	50	0		
	<b>R7</b>	<b>52</b>	<b>37</b>	<b>15 (+ 15)</b>		
所得・消費	H24	-5	-5	0	- 17	- 26
	H29	19	10	9		
	R3	28	29	1		
	<b>R7</b>	<b>11</b>	<b>3</b>	<b>8 (+ 7)</b>		
子育て・教育	H24					
	H29					
	R3					
	<b>R7</b>	<b>49</b>	<b>42</b>	<b>7 (+ 7)</b>		
文化	H24					
	H29					
	R3					
	<b>R7</b>	<b>25</b>	<b>34</b>	<b>9 (+ 9)</b>		
余暇	H24	38	38	0	+ 7	- 13
	H29	45	39	6		
	R3	50	57	7		
	<b>R7</b>	<b>57</b>	<b>44</b>	<b>13 (+ 6)</b>		
福祉・連帯	H24	2	3	1	- 6	- 16
	H29	8	22	14		
	R3	13	24	11		
	<b>R7</b>	<b>7</b>	<b>8</b>	<b>1 (- 10)</b>		

※「得点差」欄の（ ）内で、+値は前回よりも県外居住経験の「あり」「なし」間の格差が拡大、-値は縮小の傾向を示す。

県外での「居住経験なし」の層の県民は、すなわち、山梨県で生まれ、育ち、そして現在も山梨県で暮らしている人々であることから、この層の満足度得点を経年で見ていくことで、定点観測的に本県の生活満足度の推移を評価できると考えられる。

一方、県外での「居住経験あり」の層は、たとえば、山梨県で生まれ、育ち、いったん他の都道府県で暮らし、再び山梨県に戻って暮らすというケースや、他の都道府県で生まれ、育ち、そして、現在は山梨県で暮らしているというケースなどが考えられる。

ゆえに、「居住経験あり」の層は、他の都道府県と本県とを比較する視点をもって客観的な満足度評価を行いやすい人々と言えるため、この層の満足度得点の推移を見ていくことは、本県における生活の満足度を他地域との関係で相対的に評価するのに有用と考えられる。

今回、「居住経験なし」と「居住経験あり」を比べると、「仕事」が+15点で最も高く、次いで「文化」が+9点、「所得・消費」及び「子育て・教育」が+7点と続いている。

前回との比較では、「居住経験あり」が「所得・消費」「福祉・連帯」「健康」を除くすべての領域で増加している。「居住経験なし」ではすべての領域で減少した。

## エ まとめ

以上、属性別に「領域全般」の満足度得点について見てきたが、要約すると次のとおりである。

性別では、「男性」と「女性」の得点差が2桁ある領域は見られず、前回との比較では、「女性」の「余暇」でプラスになった以外、すべての領域で減少または変化がなかった。

年齢別では、「20代」及び「70歳以上」で比較的得点が高い領域が多い一方、「50代」及び「60代」で比較的得点が高い領域が多くなっている。

県外居住経験の有無では、「居住経験あり」が「所得・消費」「福祉・連帯」「健康」を除くすべての領域で前回より増加している一方、「居住経験なし」ではすべての領域で減少している。

## 5 「個別項目」の満足度

本調査における「個別項目」とは、9つの領域について、それぞれの領域を代表すると想定されるいくつかの具体的な項目のことである。たとえば、健康領域における個別項目とは、「日常医療」、「救急医療」、「検診・相談」の3つの項目をいう。以下、全県及び地域別に算出した満足度得点の結果を見ながら、その特徴を概観する。

なお、各領域全般の満足度得点については既述のとおりであるが、参考として、以下の各図表の最下欄に再掲しておく。

### (1) 健康領域

健康領域における3つの個別項目の地域別満足度得点は、図表1-5-1に示すとおりである。

図表1-5-1 満足度得点（地域別・健康領域）

(単位：点)

項目	地域	年度	全県	峡中	峡北	峡東	峡南	富士・東部
日常医療		H24	49	67	40	71	25	10
		H29	61	77	36	73	39	40
		R3	75	89	71	86	54	44
		<b>R7</b>	<b>69</b>	<b>89</b>	<b>40</b>	<b>73</b>	<b>42</b>	<b>40</b>
		差	-6	±0	-31	-13	-12	-4
救急医療		H24	-6	11	-35	9	-27	-30
		H29	6	27	-33	24	-18	-20
		R3	23	39	-9	46	-8	-6
		<b>R7</b>	<b>8</b>	<b>24</b>	<b>-26</b>	<b>11</b>	<b>8</b>	<b>-12</b>
		差	-15	-15	-17	-35	16	-6
検診・相談		H24	35	37	40	38	47	25
		H29	41	46	18	47	51	35
		R3	48	51	40	37	62	48
		<b>R7</b>	<b>44</b>	<b>50</b>	<b>25</b>	<b>44</b>	<b>60</b>	<b>35</b>
		差	-4	-1	-15	7	-2	-13
健康全般		H24	31	38	23	43	26	12
		H29	43	51	23	50	41	31
		R3	55	59	48	60	58	45
		<b>R7</b>	<b>46</b>	<b>57</b>	<b>25</b>	<b>48</b>	<b>53</b>	<b>27</b>
		差	-9	-2	-23	-12	-5	-18

※「差」は令和3年度調査と令和7年度調査との得点差。

まず、「全県」について見ると、すべての項目でプラスとなっている。前回との比較では、すべての項目で減少しており、特に「救急医療」（-15点）は2桁の減少となっている。

次に、各個別項目ごとに地域別で見ると、次のとおりである。

「日常医療」は、峡中を除くすべての地域でプラスとなっており、最上位の「峡中」（89点）と最下位の「富士・東部」及び「峡北」（40点）の開きは49点と大きく、前回（45点）からやや拡大している。前回との比較では、特に「峡北」（-31点）で大幅に減少したほか、「峡東」（-13点）、「峡南」（-12点）、「富士・東部」（-4点）、「峡中」（±0点）となっている。

「救急医療」は、最上位の「峡中」（24点）と最下位の「峡北」（-26点）の開きは50点と大きいものの、前回（55点）からは縮小している。満足度得点において地域差が確認でき、最上位の「峡中」（24点）、次いで「峡東」（11点）、「峡南」（8点）はプラスである一方、最下位の「峡北」（-26点）に加え、「富士・東部」（-12点）はマイナスとなっている。

なお、「峡北」、「富士・東部」は過去3回の調査を含め一貫して満足度得点がマイナスとなっている。

「検診・相談」は、すべての地域でプラスとなっており、最上位の「峡南」（60点）と最下位の「峡北」（25点）の開きは35点と前回（25点）から拡大している。各地域とも概ね減少し、特に「峡東」（+7点）では増加している一方、「峡北」（-15点）では大幅に減少している。

「健康領域」について概観すると、全体的に満足度水準が下降している一方、「救急医療」や「検診・相談」では、プラスの地域もあるなど、地域差が表れている項目となっている。

## (2) 安全領域

安全領域における3つの個別項目の地域別満足度得点は、図表1-5-2に示すとおりである。

図表1-5-2 満足度得点（地域別・安全領域）

(単位：点)

項目	地域	年度	全県	峡中	峡北	峡東	峡南	富士・東部
交通安全		H24	6	5	3	11	6	5
		H29	16	14	19	10	15	22
		R3	21	13	24	35	29	23
		<b>R7</b>	<b>12</b>	<b>10</b>	<b>8</b>	<b>23</b>	<b>35</b>	<b>7</b>
		差	-9	-3	-16	-12	6	-16
防犯・防火		H24	28	24	29	41	31	27
		H29	38	37	38	36	33	41
		R3	45	40	46	65	55	36
		<b>R7</b>	<b>33</b>	<b>34</b>	<b>30</b>	<b>40</b>	<b>35</b>	<b>29</b>
		差	-12	-6	-16	-25	-20	-7
自然災害		H24	13	24	19	25	-21	-7
		H29	17	31	15	10	-15	8
		R3	21	31	14	23	-7	9
		<b>R7</b>	<b>24</b>	<b>28</b>	<b>20</b>	<b>36</b>	<b>4</b>	<b>16</b>
		差	3	-3	6	13	11	7
安全全般		H24	33	37	34	40	6	26
		H29	45	50	43	39	35	44
		R3	52	54	53	52	43	48
		<b>R7</b>	<b>48</b>	<b>52</b>	<b>51</b>	<b>47</b>	<b>40</b>	<b>42</b>
		差	-4	-2	-2	-5	-3	-6

※「差」は令和3年度調査と令和7年度調査との得点差。

まず、「全県」について見ると、すべての項目でプラスとなっている。前回との比較では、「自然災害」（+3点）で増加しているほかは、すべての項目で減少しており、特に「防犯・防火」（-12点）では2桁の減少となっている。

次に、各個別項目を地域別に見ていくと次のとおりである。

「交通安全」については、すべての地域でプラスとなっているが、最上位の「峡南」（35点）と最下位の「富士・東部」（7点）の開きは28点と前回（22点）から拡大している。前回との比較では、「峡南」で6点増加しているほかは減少しており、特に「峡北」及び「富士・東部」（-16点）、「峡東」（+12点）では2桁の減少となっている。

「防犯・防火」については、すべての地域でプラスとなっているが、最上位の「峡東」（40点）と最下位の「富士・東部」（29点）の開きは11点と前回（29点）から縮小している。前回との比較では、すべての地域で減少しており、特に「峡東」（-25点）、「峡南」（-20点）、「峡北」（-16点）では2桁の減少となっている。

「自然災害」については、すべての地域でプラスとなっているが、最上位の「峡東」（36点）

と最下位の「峡南」（4点）の開きは32点と大きいものの、前回（38点）から縮小している。前回との比較では、「峡中」で3点減少しているほかはすべての地域で増加しており、特に「峡東」（+13点）、「峡南」（+11点）では2桁の増加となっている。

「安全領域」について概観すると、「交通安全」及び「自然災害」では、地域差が大きい状況となっている。また、前回と比較すると「交通安全」を除いて地域差が縮小している。

### (3) 居住環境領域

居住環境を表す要素は多種多様であるため、この領域内の個別項目は8項目あり、最も項目数の多い領域となっている。これらの地域別満足度得点は図表1-5-3に示すとおりである。

図表1-5-3 満足度得点（地域別・居住環境領域）

(単位：点)

地域 項目	年度	全県	峡中	峡北	峡東	峡南	富士・ 東部
自然環境	H24	72	71	75	74	52	77
	H29	81	77	101	76	67	88
	R3	82	78	101	90	81	79
	<b>R7</b>	<b>75</b>	<b>81</b>	<b>78</b>	<b>62</b>	<b>53</b>	<b>77</b>
	差	-7	3	-23	-28	-28	-2
大気汚染等	H24	25	23	40	21	35	22
	H29	43	41	59	35	54	43
	R3	48	43	60	39	80	50
	<b>R7</b>	<b>47</b>	<b>50</b>	<b>58</b>	<b>43</b>	<b>54</b>	<b>37</b>
	差	-1	7	-2	4	-26	-13
公園広場等	H24	1	17	5	4	-18	-28
	H29	15	31	4	25	9	-16
	R3	14	35	-9	20	10	-23
	<b>R7</b>	<b>13</b>	<b>35</b>	<b>1</b>	<b>11</b>	<b>1</b>	<b>-23</b>
	差	-1	±0	10	-9	-9	±0
ごみ・ 生活排水	H24	44	51	44	37	42	36
	H29	56	63	54	45	66	50
	R3	59	65	49	42	72	57
	<b>R7</b>	<b>63</b>	<b>70</b>	<b>51</b>	<b>67</b>	<b>77</b>	<b>46</b>
	差	4	5	2	25	5	-11
住 宅	H24	71	64	83	74	83	74
	H29	82	84	94	70	94	77
	R3	85	84	104	77	88	86
	<b>R7</b>	<b>89</b>	<b>95</b>	<b>88</b>	<b>80</b>	<b>103</b>	<b>82</b>
	差	4	11	-16	3	15	-4
公共交通 機 関	H24	-59	-50	-77	-58	-88	-62
	H29	-69	-63	-73	-75	-88	-68
	R3	-53	-44	-77	-49	-61	-63
	<b>R7</b>	<b>-65</b>	<b>-59</b>	<b>-81</b>	<b>-70</b>	<b>-65</b>	<b>-67</b>
	差	-12	-15	-4	-21	-4	-4
道 路	H24	-10	2	-18	-7	-28	-26
	H29	-2	4	-18	4	3	-12
	R3	4	15	3	11	2	-21
	<b>R7</b>	<b>-2</b>	<b>4</b>	<b>-15</b>	<b>-4</b>	<b>20</b>	<b>-16</b>
	差	-6	-11	-18	-15	18	5
買 い 物	H24	21	53	-21	24	-32	-10
	H29	26	47	-11	32	-17	6
	R3	41	73	11	32	-35	12
	<b>R7</b>	<b>44</b>	<b>78</b>	<b>-23</b>	<b>36</b>	<b>1</b>	<b>16</b>
	差	3	5	-34	4	36	4
居住環境 全 般	H24	46	57	27	49	26	37
	H29	54	61	55	56	38	44
	R3	65	75	56	60	52	56
	<b>R7</b>	<b>63</b>	<b>77</b>	<b>47</b>	<b>53</b>	<b>45</b>	<b>51</b>
	差	-2	2	-9	-7	-7	-5

※「差」は令和3年度調査と令和7年度調査との得点差。

まず、「全県」における各項目の満足度得点を高い順に示すと、「住宅」（89点）、「自然環境」（75点）、「ごみ・生活排水」（63点）、「大気汚染等」（47点）、「買い物」（44点）、「公園広場等」（13点）、「道路」（－2点）、「公共交通機関」（－65点）となり、各項目間における得点差が顕著である。

前回との比較では、「ごみ・生活排水」及び「住宅」（＋4点）、「買い物」（＋3点）で増加しているほかは、すべての項目で減少しており、特に「公共交通機関」（－12点）では2桁の減少となっている。

過去3回の調査を含めた推移を見ると、「自然環境」「大気汚染等」「公園広場等」「ごみ・生活排水」「住宅」「買い物」の6項目では一貫して満足度得点がプラスとなっており、特に「自然環境」「住宅」では高水準となっている。一方、「公共交通機関」は一貫してマイナスとなっており、不満傾向が高い状況が続いている。

次に、これらの項目を地域別に見ると、次のとおりである。

「自然環境」は、すべての地域で非常に高いプラスの水準となっており、最上位の「峡中」（81点）と最下位の「峡南」（53点）の開きは28点と前回（23点）から拡大している。前回との比較では、「峡中」で3点増加したほかは、すべての地域で減少しており、特に「峡東」及び「峡南」（－28点）、「峡北」（－23点）では2桁の減少となっている。

「大気汚染等」は、すべての地域でプラスとなっているが、最上位の「峡北」（58点）と最下位の「富士・東部」（37点）の開きは21点と前回（41点）から縮小している。前回との比較では、「峡中」（＋7点）、「峡東」（＋4点）を除くすべての地域で減少しており、特に「峡南」（－26点）、「富士・東部」（－13点）では2桁の減少となっている。

「公園広場等」は、最上位の「峡中」（35点）と最下位の「富士・東部」（－23点）の開きが58点と前回（58点）と変わらなかった。前回との比較では、「峡北」（＋10点）は増加した一方で、「峡東」及び「峡南」（－9点）は減少しており、満足度得点の増減にばらつきがある。

「ごみ・生活排水」は、すべての地域でプラスとなっているが、最上位の「峡南」（77点）と最下位の「富士・東部」（46点）の開きは31点と前回（30点）から拡大している。前回との比較では、「峡東」（＋25点）では2桁の増加となっている一方で、「富士・東部」（－11点）では2桁の減少となっている。

「住宅」は、すべての地域で非常に高いプラスの水準となっているが、最上位の「峡南」（103点）と、最下位の「峡東」（80点）の開きは23点と前回（27点）から縮小している。前回との比較では、「峡南」（＋15点）、「峡中」（＋11点）、「峡東」（＋3点）で増加した一方、「峡北」（－16点）、「富士・東部」（－4点）では減少しており、満足度得点の増減にばらつきがある。

「公共交通機関」は、すべての地域で満足度得点がマイナスであり、不満傾向が強く表れている。最上位の「峡中」（－59点）と最下位の「峡北」（－81点）の開きは22点と前回（33点）から縮小している。前回との比較では、すべての地域でマイナスであり、特に「峡東」（－21点）、「峡中」（－15点）では2桁の減少となっており、更に不満傾向が強まっている。

「道路」は、最上位の「峡南」（+20点）と最下位の「富士・東部」（-16点）の開きは36点と前回（36点）と変化はなかった。前回との比較では、「峡南」で+18点と2桁の増加となった一方、「峡北」（-18点）、「峡東」（-15点）、「峡中」（-11点）では2桁の減少となっており、満足度得点の増減にばらつきがある。また、「峡中」では過去3回を含めて一貫してプラスであるが、「富士・東部」では過去3回を含めて一貫してマイナスのままであり、地域における回答傾向の違いが明らかとなっている。

「買い物」は、最上位の「峡中」（78点）と最下位の「峡北」（-23点）の開きは101点と非常に大きく、居住環境領域において最も地域差の大きい項目であるが、前回（108点）からは差が縮小している。前回との比較では、最上位の「峡南」（+36点）で2桁の増加となっている一方、「峡北」（-34点）では2桁の減少となっている。また、過去3回を含めた推移を見ると、前回まで一貫して満足度得点がマイナスであった「峡南」がプラスとなったが、前回プラスに転じた「峡北」が再びマイナスとなっている。

「居住環境領域」について概観すると、すべての領域の各項目の中で高い水準にある「自然環境」や「住宅」では過去3回の調査を含めて一貫して高い満足度水準となっているほか、「ごみ・生活排水」といった日常生活を取り巻く環境についても、比較的高水準が維持されている。逆に「公共交通機関」では、全項目中で最低水準の満足度得点となっている。

#### (4) 仕事領域

仕事領域における3つの個別項目の地域別満足度得点は、図表1-5-4に示すとおりである。

図表1-5-4 満足度得点（地域別・仕事領域）

(単位：点)

項目	地域	年度	全県	峡中	峡北	峡東	峡南	富士・東部
就職の機会		H24	-12	-10	-35	-2	-2	-19
		H29	1	9	4	3	-11	-11
		R3	19	20	8	34	1	13
		<b>R7</b>	<b>13</b>	<b>16</b>	<b>5</b>	<b>15</b>	<b>18</b>	<b>9</b>
		差	-6	-4	-3	-19	17	-4
労働条件		H24	-2	-1	-9	2	-7	-2
		H29	7	12	12	-4	25	-2
		R3	27	22	11	42	18	32
		<b>R7</b>	<b>23</b>	<b>29</b>	<b>16</b>	<b>6</b>	<b>35</b>	<b>26</b>
		差	-4	7	5	-36	17	-6
仕事のやりがい		H24	42	45	24	40	51	40
		H29	44	48	36	41	55	38
		R3	57	54	57	62	65	58
		<b>R7</b>	<b>53</b>	<b>61</b>	<b>38</b>	<b>53</b>	<b>62</b>	<b>40</b>
		差	-4	7	-19	-9	-3	-18
仕事全般		H24	33	34	22	36	40	33
		H29	37	44	30	31	55	28
		R3	50	45	45	58	48	56
		<b>R7</b>	<b>45</b>	<b>55</b>	<b>34</b>	<b>46</b>	<b>42</b>	<b>31</b>
		差	-5	10	-11	-12	-6	-25

※「差」は令和3年度調査と令和7年度調査との得点差。

まず、「全県」について見ると、すべての項目でプラスとなっている。前回との比較では、「就職の機会」（-6点）、「労働条件」及び「仕事のやりがい」（-4点）と、すべての項目で減少している。

次に、これらの個別項目を地域別に見ると、次のとおりである。

「就職の機会」は、すべての地域でプラスとなっており、最上位の「峡南」（18点）と最下位の「峡北」（5点）の開きは13点と前回（33点）から縮小している。前回との比較では、峡南（+17点）を除くすべての地域で減少しており、特に「峡東」（-19点）では大きく減少している。

「労働条件」は、すべての地域でプラスとなっているが、最上位である「峡南」（35点）と最下位の「峡北」（6点）の開きは29点と前回（31点）から縮小している。前回との比較では、「峡南」（+17点）では2桁の増加となっている一方、「峡東」（-36点）では2桁の減少となっている。

「仕事のやりがい」は、すべての地域でプラスとなっており、最上位の「峡南」（62点）と最下位の「峡北」（38点）の開きは24点と前回（11点）から拡大している。前回との比較では、「峡中」（＋7点）では増加となっている一方、「峡北」（－19点）、「富士・東部」（－18点）では2桁の減少となっている。また、過去3回を含めた推移を見ても、全体的に「就職の機会」「労働条件」に比べて満足度得点が高くなっている。

「仕事領域」について概観すると、「仕事のやりがい」は過去の調査から一貫して安定した満足度水準を維持しているが、「就職の機会」や「労働条件」も含め、満足度得点は前回までは増加傾向にあったが今回は減少に転じており、「仕事領域」における満足度水準は下降している。

## (5) 所得・消費領域

所得・消費領域における4つの個別項目の地域別の満足度得点は、図表1-5-5に示すとおりである。

図表1-5-5 満足度得点（地域別・所得消費領域）

(単位：点)

項目	地域	年度	全県	峡中	峡北	峡東	峡南	富士・東部
	所得		H24	-36	-32	-43	-40	-35
		H29	-15	-11	-7	-26	-32	-11
		R3	-2	-1	-6	-5	3	-5
		<b>R7</b>	<b>-14</b>	<b>-11</b>	<b>-27</b>	<b>-17</b>	<b>-14</b>	<b>-12</b>
		差	-12	-10	-21	-12	-17	-7
資産		H24	-38	-36	-38	-41	-35	-41
		H29	-21	-16	-15	-24	-42	-24
		R3	-13	-13	-17	-14	-10	-9
		<b>R7</b>	<b>-20</b>	<b>-17</b>	<b>-28</b>	<b>-27</b>	<b>-14</b>	<b>-21</b>
		差	-7	-4	-11	-13	-4	-12
消費		H24	5	14	9	13	-17	-13
		H29	6	15	-12	15	-8	-5
		R3	14	25	-1	16	-8	5
		<b>R7</b>	<b>4</b>	<b>17</b>	<b>-13</b>	<b>-7</b>	<b>-1</b>	<b>-8</b>
		差	-10	-8	-12	-23	7	-13
物価		H24	-71	-61	-65	-85	-88	-76
		H29	-62	-59	-52	-67	-85	-63
		R3	-63	-56	-78	-60	-62	-74
		<b>R7</b>	<b>-148</b>	<b>-146</b>	<b>-137</b>	<b>-148</b>	<b>-168</b>	<b>-150</b>
		差	-85	-90	-59	-88	-106	-76
所得・消費全般		H24	-5	1	-14	-11	-7	-7
		H29	15	18	28	12	4	11
		R3	29	32	32	28	25	22
		<b>R7</b>	<b>7</b>	<b>13</b>	<b>6</b>	<b>2</b>	<b>-4</b>	<b>0</b>
		差	-22	-19	-26	-26	-29	-22

※「差」は令和3年度調査と令和7年度調査との得点差。

「全県」では、「消費」が4点とプラスとなっているほかは、「物価」（-148点）、「資産」（-20点）、「所得」（-14点）と、全体的にマイナスとなっている項目が多い。また、前回との比較では、すべての項目で減少しており、特に「物価」（-85点）は大幅に減少しているなど、不満傾向は拡大している。

次に、これらの個別項目を地域別に見ると、次のとおりである。

「所得」は、すべての地域でマイナスとなっており、最上位の「峡中」（-11点）と最下位の「峡北」（-27点）の開きは16点と前回（9点）から拡大している。前回との比較では、すべての地域で2桁の減少となっており、不満傾向は拡大している。

「資産」は、すべての地域でマイナスとなっており、最上位の「峡南」（－14点）と最下位の「峡北」（－28点）の開きは14点と前回（8点）から拡大している。前回との比較では、すべての地域で減少となっている。

「消費」は、最上位の「峡中」（17点）と最下位の「峡北」（－13点）の開きが30点と前回（33点）から縮小している。前回との比較では、「峡南」（＋7点）が増加したほかは、すべて減少となっている。

「物価」は、過去3回の調査と同様、すべての地域で大きなマイナスとなっており、最上位の「峡北」（－137点）と最下位の「峡南」（－168点）の開きは31点と前回（22点）から拡大している。前回との比較では、すべての地域で大幅に減少しており、特に「峡南」（－106点）は3桁の減少となっている。

「所得・消費領域」について概観すると、「物価」をはじめ「所得」や「資産」といった家計の基本となる項目では、過去3回を含めて、不満傾向が強い状況が続いている。今回は特に物価の減少幅が大きく、物価高に対する不満が顕著に出ていることが明らかとなった。

## (6) 子育て・教育領域

子育て・教育領域における5つの個別項目の地域別満足度得点は、図表1-5-6に示すとおりである。

図表1-5-6 満足度得点（地域別・子育て・教育領域）

(単位：点)

項目	地域	年度	全県	峡中	峡北	峡東	峡南	富士・東部
出産・育児		H24						
		H29						
		R3						
		<b>R7</b>	<b>6</b>	<b>14</b>	<b>13</b>	<b>11</b>	<b>-20</b>	<b>-10</b>
		差						
幼稚園・保育所		H24	30	30	14	43	28	28
		H29	31	42	31	28	19	19
		R3	43	53	35	33	38	38
		<b>R7</b>	<b>27</b>	<b>29</b>	<b>25</b>	<b>32</b>	<b>36</b>	<b>17</b>
		差	-16	-24	-10	-1	-2	-21
小中高の教育		H24	0	-1	-8	21	0	-9
		H29	22	24	34	18	21	17
		R3	30	41	19	27	36	13
		<b>R7</b>	<b>11</b>	<b>13</b>	<b>3</b>	<b>24</b>	<b>-9</b>	<b>8</b>
		差	-19	-28	-16	-3	-45	-5
高等教育の機会		H24	-29	-28	-30	-14	-21	-42
		H29	-22	-20	-21	-20	-16	-28
		R3	-7	2	-40	-2	1	-20
		<b>R7</b>	<b>-22</b>	<b>-18</b>	<b>-23</b>	<b>-26</b>	<b>-8</b>	<b>-29</b>
		差	-15	-20	17	-24	-9	-9
家庭教育		H24	-29	-34	-38	-23	-37	-20
		H29	-6	-7	-9	-16	15	-2
		R3	15	20	-4	13	32	10
		<b>R7</b>	<b>6</b>	<b>8</b>	<b>-5</b>	<b>7</b>	<b>11</b>	<b>3</b>
		差	-9	-12	-1	-6	-21	-7
子育て・教育全般		H24						
		H29						
		R3						
		<b>R7</b>	<b>45</b>	<b>48</b>	<b>39</b>	<b>44</b>	<b>63</b>	<b>38</b>
		差						

※「差」は令和3年度調査と令和7年度調査との得点差。

※「出産・育児」、「子育て・教育全般」は、令和7年度調査から調査項目が変更となったため、比較不可となっている。

まず、「全県」について見ると、満足度得点の高い順に、「幼稚園・保育所」（27点）、「小中高の教育」（11点）、「家庭教育」及び「出産・育児」（6点）、「高等教育の機会」（-22点）となっている。前回との比較では、「小中高の教育」（-19点）、「高等教育の機会」（-15点）、「家庭教育」（-9点）と、減少している項目が多くなっている。

次に、これらの個別項目を地域別に見ると、次のとおりである。

「出産・育児」は、最上位の「峡中」（14点）と最下位の「峡南」（-20点）の開きは34点となっている。

「幼稚園・保育所」は、すべての地域でプラスとなっており、最上位の「峡南」（36点）と最下位の「富士・東部」（17点）の開きは19点となっている。前回との比較では、すべての地域で減少しており、特に「峡中」（-24点）、「富士・東部」（-21点）、「峡北」（-10点）で2桁の減少となっている。

「小中高の教育」は、最上位の「峡東」（24点）と最下位の「峡南」（-9点）の開きは33点と前回（28点）から拡大している。前回との比較では、すべての地域で減少しており、特に「峡南」（-45点）、「峡中」（-28点）、「峡北」（-16点）で2桁の減少となっている。

「高等教育の機会」は、最上位の「峡南」（-8点）と最下位の「富士・東部」（-29点）の開きは21点と前回（42点）から大幅に縮小している。前回との比較では、峡北（+17点）で大幅に増加している一方、「峡東」（-24点）、「峡中」（-20点）で大きく減少しているなど、地域差が表れている。

「家庭教育」は、最上位の「峡南」（+11点）と最下位の「峡北」（-5点）の開きは16点と前回（36点）から縮小している。前回との比較では、すべての地域で減少しており、特に「峡南」（-21点）、「峡中」（-12点）で2桁の減少となっている。

「子育て・教育領域」について概観すると、教育関連では「小中高の教育」、「高等教育の機会」と、子どもの年齢が上がるにつれて満足度が低下していく傾向にある。また、「峡中」では過去と比較できるすべての項目において、満足度得点が前回から2桁の減少となっているため、今後も注目していく必要がある。

## (7) 文化領域

文化領域における3つの個別項目の地域別満足度得点は、図表1-5-7に示すとおりである。

図表1-5-7 満足度得点（地域別・文化領域）

（単位：点）

項目 \ 地域	年度	全県	峡中	峡北	峡東	峡南	富士・東部
生涯学習	H24	-1	4	-2	7	0	-15
	H29	5	5	4	6	11	5
	R3	2	11	-1	2	-9	-12
	<b>R7</b>	<b>6</b>	<b>11</b>	<b>11</b>	<b>4</b>	<b>7</b>	<b>-6</b>
	差	4	±0	12	2	16	6
文化施設	H24	27	41	29	34	7	1
	H29	32	43	41	40	9	6
	R3	36	56	25	27	31	4
	<b>R7</b>	<b>34</b>	<b>52</b>	<b>30</b>	<b>24</b>	<b>29</b>	<b>1</b>
	差	-2	-4	5	-3	-2	-3
文化財・伝統継承	H24	24	25	17	28	14	23
	H29	31	28	33	37	28	31
	R3	27	36	13	20	25	20
	<b>R7</b>	<b>26</b>	<b>34</b>	<b>15</b>	<b>29</b>	<b>11</b>	<b>14</b>
	差	-1	-2	2	9	-14	-6
文化全般	H24						
	H29						
	R3						
	<b>R7</b>	<b>29</b>	<b>35</b>	<b>23</b>	<b>28</b>	<b>20</b>	<b>19</b>
	差						

※「差」は令和3年度調査と令和7年度調査との得点差。

※「文化全般」は、令和7年度調査から調査項目が変更となったため、比較不可となっている。

まず、「全県」について見ると、すべての項目でプラスとなっている。前回との比較では、「生涯学習」（+4点）で増加しているほかは、すべての項目で減少している。

次に、これらの個別項目を地域別に見ると、次のとおりである。

「生涯学習」は、最上位である「峡中」及び「峡北」（11点）と最下位である「富士・東部」（-6点）の開きは17点と前回（23点）から縮小している。前回との比較では、「峡中」（±0点）を除くすべての地域で増加しており、特に「峡南」（+16点）、「峡北」（+12点）で2桁の増加となっている。

「文化施設」は、すべての地域でプラスとなっており、最上位の「峡中」（52点）と最下位の「富士・東部」（1点）の開きは51点と前回（52点）から縮小している。前回との比較では、「峡南」（+5点）で増加している一方、ほかの地域では減少するなど、地域差が表れている。

「文化財・伝統継承」は、すべての地域でプラスとなっているが、最上位の「峡中」（34点）と最下位の「峡南」（11点）の開きは23点と前回（23点）と変わらなかった。前回との比較では、「峡東」（+9点）、「峡北」（+2点）は増加している一方で、「峡南」（-14点）は2桁の減少となっている。

「文化領域」について概観すると、「文化施設」「文化財・伝統継承」ともに過去から安定して満足度水準がプラスに維持されている。

## (8) 余暇領域

余暇領域における5つの個別項目の地域別満足度得点は、図表1-5-8に示すとおりである。

図表1-5-8 満足度得点（地域別・余暇領域）

(単位：点)

項目	地域	年度	全県	峡中	峡北	峡東	峡南	富士・東部
自由時間		H24	35	37	43	26	24	37
		H29	39	42	57	22	38	38
		R3	58	56	65	71	67	50
		<b>R7</b>	<b>48</b>	<b>52</b>	<b>47</b>	<b>40</b>	<b>36</b>	<b>47</b>
		差	-10	-4	-18	-31	-31	-3
余暇施設		H24	-10	6	-26	-1	-31	-33
		H29	-4	12	-1	-16	-1	-27
		R3	-1	10	-27	15	-5	-22
		<b>R7</b>	<b>0</b>	<b>9</b>	<b>-9</b>	<b>-1</b>	<b>-7</b>	<b>-13</b>
		差	1	-1	18	-16	-2	9
娯楽		H24	-30	-11	-39	-34	-23	-64
		H29	-40	-16	-48	-53	-30	-75
		R3	-27	-14	-51	-14	-18	-60
		<b>R7</b>	<b>-37</b>	<b>-24</b>	<b>-34</b>	<b>-50</b>	<b>-28</b>	<b>-59</b>
		差	-10	-10	17	-36	-10	1
余暇情報		H24	-9	-2	-7	0	-11	-31
		H29	-9	-6	0	-7	-6	-22
		R3	-11	-4	-16	-7	-5	-30
		<b>R7</b>	<b>-4</b>	<b>6</b>	<b>-12</b>	<b>-16</b>	<b>15</b>	<b>-21</b>
		差	7	10	4	-9	20	9
自然と親しむ機会		H24	32	33	18	36	24	35
		H29	40	36	66	38	47	35
		R3	46	51	55	35	39	42
		<b>R7</b>	<b>49</b>	<b>53</b>	<b>63</b>	<b>51</b>	<b>41</b>	<b>36</b>
		差	3	2	8	16	2	-6
余暇全般		H24	38	43	32	36	27	37
		H29	42	46	58	36	51	30
		R3	53	52	56	58	62	49
		<b>R7</b>	<b>51</b>	<b>60</b>	<b>51</b>	<b>47</b>	<b>27</b>	<b>42</b>
		差	-2	8	-5	-11	-35	-7

※「差」は平成29年度調査と令和3年度調査との得点差。

まず、「全県」で見ると、満足度得点の高い順に、「自然と親しむ機会」（49点）、「自由時間」（48点）、「余暇施設」（0点）、「余暇情報」（-4点）、「娯楽」（-37点）となっている。前回との比較では、「自由時間」及び「娯楽」（-10点）を除き、すべての項目で増加している。

次に、これらの個別項目を地域別に見ると、次のとおりである。

「自由時間」は、すべての地域でプラスとなっており、最上位の「峡中」（52点）と最下位の「峡南」（36点）の開きは16点と前回（21点）から縮小している。前回との比較では、すべての地域で減少しており、特に「峡東」及び「峡南」（-31点）、「峡北」（-18点）で2桁の減少となっている。

「余暇施設」は、最上位の「峡中」（9点）と最下位の「富士・東部」（-13点）の開きは22点と前回（42点）から縮小している。前回との比較では、「峡北」（+18点）では2桁の増加となっている一方、「峡東」（-16点）では2桁の減少となっており、地域における満足度得点の傾向に大きな違いがある。

「娯楽」は、すべての地域でマイナスとなっているが、最上位の「峡中」（-24点）と最下位の「富士・東部」（-59点）の開きは35点と前回（46点）から縮小している。前回との比較では、「峡北」（+17点）で2桁の増加となっている一方、「峡東」（-36点）では2桁の減少となっている。

「余暇情報」は、最上位の「峡南」（+15点）と最下位の「富士・東部」（-21点）の開きが36点と前回（26点）から拡大している。前回との比較では、「峡東」（-9点）で減少している一方、「峡南」（+20点）、「峡中」（+10点）では2桁の増加となっているなど、地域における回答傾向に違いがある。

「自然と親しむ機会」は、すべての地域でプラスとなっており、最上位の「峡北」（63点）と最下位の「富士・東部」（36点）の開きは27点と前回（20点）から拡大している。前回との比較では、「富士・東部」（-6点）で減少している一方、「峡東」（+16点）で2桁の増加となっており、満足度水準の上昇傾向に地域差が確認できる。

「余暇領域」について概観すると、「自由時間」及び「自然と親しむ機会」については高い満足度水準となっている一方、「余暇施設」「娯楽」「余暇情報」の3つの項目は、多くの地域で不満傾向が表れており、特に「娯楽」については全県的に強い不満傾向にある。

## (9) 福祉・連帯領域

最後に、福祉・連帯領域における2つの個別項目の地域別満足度得点は、図表1-5-9に示すとおりである。

図表1-5-9 満足度得点（地域別・福祉連帯領域）

(単位：点)

項目 \ 地域	年度	全県	峡中	峡北	峡東	峡南	富士・東部
地域とのつながり	H24	32	31	35	29	38	32
	H29	34	33	41	29	37	35
	R3	26	20	31	31	41	27
	<b>R7</b>	<b>14</b>	<b>11</b>	<b>9</b>	<b>13</b>	<b>19</b>	<b>24</b>
	差	-12	-9	-22	-18	-22	-3
福祉施策	H24	-33	-35	-31	-32	-19	-35
	H29	-18	-13	-31	-19	-12	-23
	R3	-9	-8	-24	-2	12	-17
	<b>R7</b>	<b>-24</b>	<b>-27</b>	<b>-21</b>	<b>-23</b>	<b>-13</b>	<b>-23</b>
	差	-15	-19	3	-21	-25	-6
福祉・連帯全般	H24	3	1	-4	6	20	0
	H29	14	14	7	13	39	11
	R3	19	20	5	18	46	13
	<b>R7</b>	<b>8</b>	<b>6</b>	<b>5</b>	<b>16</b>	<b>24</b>	<b>5</b>
	差	-11	-14	±0	-2	-22	-8

※「差」は平成29年度調査と令和3年度調査との得点差。

まず、「全県」で見ると、満足度得点の高い順に、「地域とのつながり」（14点）、「福祉施策」（-24点）となっている。前回との比較では、すべての項目で減少している。また、「地域とのつながり」は、過去3回の調査を含めて一貫してプラスとなっている一方、「福祉施策」は、過去3回の調査を含めて一貫してマイナスとなっている。

次に、この2つの個別項目を地域別に見ると、次のとおりである。

「地域とのつながり」は、すべての地域でプラスとなっているが、最上位の「富士・東部」（24点）と最下位の「峡北」（9点）の開きは15点と前回（21点）から縮小している。前回との比較では、すべての地域で減少となっており、特に「峡北」及び「峡南」（-22点）、「峡東」（-18点）では、2桁の減少となっている。

「福祉施策」は、最上位の「峡南」（-13点）と最下位の「峡中」（-27点）の開きが14点と前回（36点）から縮小している。前回との比較では、「峡北」（+3点）では増加となっている一方、「峡南」（-25点）、「峡東」（-21点）、「峡中」（-19点）では2桁の減少となっている。

「福祉・連帯領域」について概観すると、日常生活と密接に関係している「地域とのつながり」については、過去3回の調査で一貫してプラスの満足度水準を維持している。一方で「福祉施策」については、過去3回の調査で前回の「峡南」を除くすべての地域でマイナスであり、今回「峡南」（-13点）も再びマイナスに転じるなど全体的に不満傾向にある。

## (10) 個別項目満足度のまとめ

以上、「健康」から「福祉・連帯」までの9領域における36の個別項目について、過去3回の調査の結果との比較などを含めながら、地域別に見てきた。これらを要約すると、以下のとおりである。

第1に、地域、個別項目によって異なる場合もあるが、全体的に見て、前回よりも満足度水準は下降傾向にある。

第2に、高低の差が見られるものの、すべての地域で満足度得点がプラスである項目は、「日常医療」「検診・相談」「交通安全」「防犯・防火」「自然災害」「自然環境」「大気汚染等」「ごみ・生活排水」「住宅」「就職の機会」「労働条件」「仕事のやりがい」「幼稚園・保育所」「文化施設」「文化財・伝統継承」「自由時間」「自然と親しむ機会」「地域とのつながり」の18項目である。前回(18項目)から増えたものに「自然災害」があり、前回から減ったものに「小中高の教育」がある。

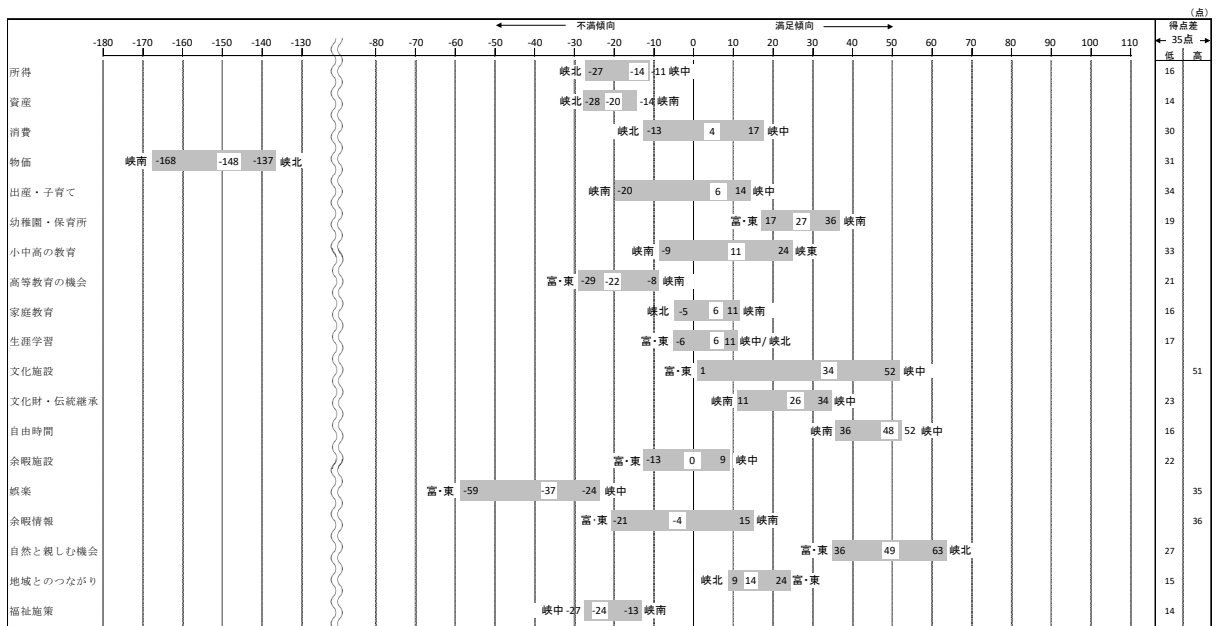
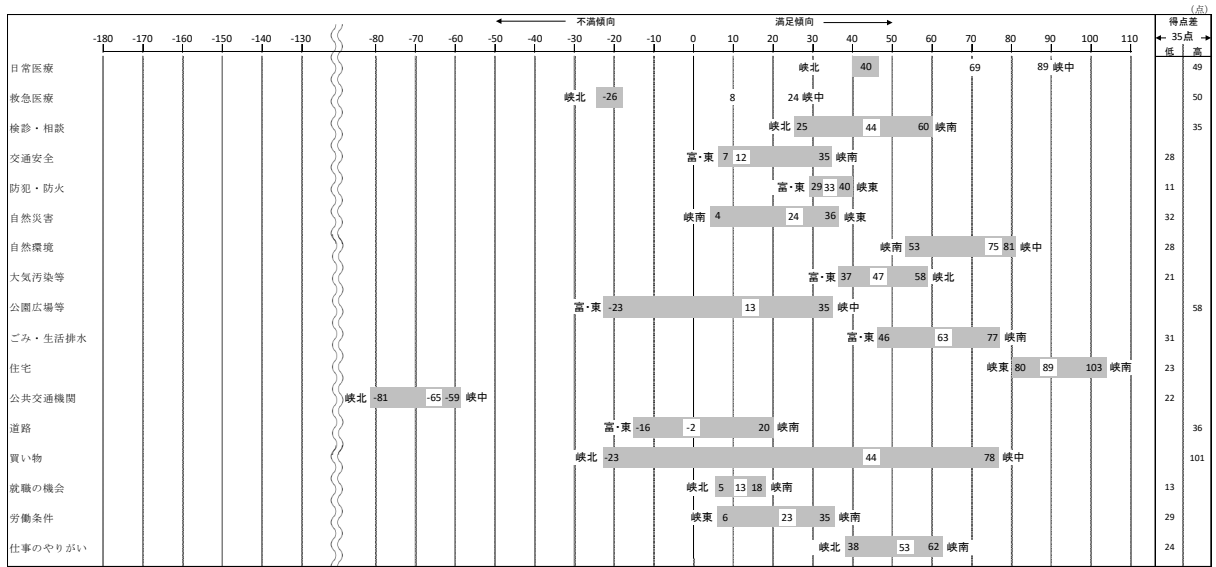
第3に、逆にどの地域においても満足度得点がマイナスである項目は、「公共交通機関」「所得」「資産」「物価」「高等教育の機会」「娯楽」「福祉施策」の7項目である。前回(5項目)から増えたものに「所得」「福祉施策」「高等教育の機会」の3項目があり、減ったものに「余暇情報」がある。

第4に、地域により満足度得点のプラスとマイナスが混在している項目は、「救急医療」「公園広場等」「道路」「買い物」「消費」「出産・育児」「小中高の教育」「家庭教育」「生涯学習」「余暇施設」「余暇情報」の11項目である。

第5に、最上位の地域と最下位の地域との開きが35点以上、つまり地域間の得点差の大きい項目は、「日常医療」「救急医療」「検診・相談」「公園広場等」「道路」「買い物」「文化施設」「娯楽」「余暇情報」の9項目である。前回との相違としては、「検診・相談」「余暇情報」で新たに地域差が拡大した一方、「自然災害」「大気汚染等」「高等教育の機会」「家庭教育」「余暇施設」「福祉施策」の地域差が縮小している。

なお、令和7年度における各個別項目についての地域間の得点差(開き)を一括して示すと、図表1-5-10のとおりである。

図表1-5-10 個別項目の地域間の得点差



※白抜き数字は「全県」の得点。  
 ※「富・東」は「富士・東部」の略。  
 ※図表右上の「得点差」は最も得点の高い地域と最も得点の低い地域の得点差。左列は35点未満、右列は35点以上。

## 6 相関関係

これまで領域ごと及び項目ごとの満足度推移を確認したが、県民の生活全般の満足度向上にどの項目が影響しているのかといった相関関係について分析する。

### (1) 相関関係とは

相関関係とは、2つの事柄が関わり合う関係のことであり、特に統計学では一方の数値が増加すると、もう一方の数値が減少または増加する関係のことをいう。例えば、雨が降ればその地域の川の水量は増加するように、一方が増えるともう一方も増える状態を正の相関関係という。逆に、地球全体の気温が上がれば北極や南極の氷の量は減少するように、一方が増えるともう一方が減少する状態を負の相関関係という。

相関関係とは、一方が増えることでもう一方が増加または減少する状態を指すのみであり、それが2つの事象に因果関係があると判断できるものではない。因果関係を証明するには、相関関係を示した上で、別の方法で因果を証明する必要がある。

また、因果関係は「ある／ない」と表現されることが多いが、相関関係の場合は「強い／弱い／ない」と表現されることが多い。相関が強いと、一方が増えればもう一方が増える、もしくは減る傾向が明らかに（確実に）見られるが、相関が弱いと、もう一方の増減の大小にバラつきがある状態となる。この相関の強弱を示す数値に、「相関係数」という数値が用いられる。相関係数の大小と相関の強弱の関係は以下が目安とされている。

図表 1-6-1 相関係数及び相関関係

相関係数	相関関係
0.7 ~ 1.0	かなり強い正の相関がある
0.4 ~ 0.7	正の相関がある
0.2 ~ 0.4	弱い正の相関がある
-0.2 ~ 0.2	ほとんど相関がない
-0.4 ~ -0.2	弱い負の相関がある
-0.7 ~ -0.4	負の相関がある
-1.0 ~ -0.7	かなり強い負の相関がある

## (2) 生活全般と項目ごとの相関関係

生活全般と項目ごとの相関係数を算出すると、以下の表のとおりとなる。  
(相関係数が0.4以上となる場合は太字表記としている。)

図表 1-6-2 生活全般と項目ごとの相関関係表

	健康			
	日常医療	救急医療	検診・相談	健康全般
全体	0.27	0.21	0.19	0.33
18～19歳	<b>0.74</b>	<b>0.81</b>	0.08	<b>0.46</b>
20代	0.17	0.17	0.11	0.24
30代	0.33	0.21	0.14	0.35
40代	0.24	0.31	0.23	0.27
50代	0.15	0.13	0.06	0.29
60代	0.35	0.25	0.28	0.38
70歳以上	0.30	0.19	0.36	<b>0.42</b>

	安全			
	交通安全	防犯・防火	自然災害	安全全般
全体	0.32	0.28	0.28	<b>0.43</b>
18～19歳	<b>0.66</b>	0.19	0.18	0.22
20代	0.19	0.18	0.17	<b>0.42</b>
30代	0.29	0.24	<b>0.41</b>	<b>0.41</b>
40代	0.29	0.33	0.32	<b>0.42</b>
50代	0.24	0.22	0.17	0.33
60代	<b>0.46</b>	0.34	0.29	<b>0.48</b>
70歳以上	0.33	0.30	0.25	<b>0.44</b>

	居住環境			
	自然環境	大気汚染等	公園広場等	ごみ・生活排水
全体	0.33	0.36	0.32	0.36
18～19歳	0.30	-0.04	<b>0.45</b>	<b>0.59</b>
20代	0.36	0.37	0.29	0.29
30代	0.25	0.30	0.35	0.30
40代	0.27	0.25	0.29	0.33
50代	0.34	0.25	0.27	0.34
60代	0.39	<b>0.44</b>	0.33	0.38
70歳以上	0.30	<b>0.48</b>	0.39	<b>0.50</b>

	居住環境				
	住宅	公共交通機 関	道路	買い物	居住環境 全般
全体	<b>0.42</b>	0.19	0.33	0.35	<b>0.50</b>
18～19歳	-0.08	0.32	<b>0.69</b>	-0.07	0.11
20代	<b>0.46</b>	0.17	0.35	0.38	<b>0.54</b>
30代	<b>0.47</b>	0.13	0.33	0.34	<b>0.47</b>
40代	<b>0.40</b>	0.15	0.22	0.39	<b>0.54</b>
50代	0.26	0.13	0.23	0.29	<b>0.52</b>
60代	<b>0.44</b>	0.25	<b>0.42</b>	0.35	<b>0.48</b>
70歳以上	<b>0.47</b>	0.26	0.39	0.36	<b>0.47</b>

	仕事			
	就職の機会	労働条件	仕事のやり がい	仕事全般
全体	0.20	0.28	0.27	0.30
18～19歳	0.23	0.32	0.21	0.18
20代	0.20	0.30	0.37	0.37
30代	0.29	0.36	0.27	0.38
40代	0.25	0.38	0.33	0.36
50代	0.21	0.38	<b>0.40</b>	0.39
60代	0.25	0.38	0.37	0.39
70歳以上	0.13	0.13	0.17	0.19

	所得・消費				
	所得	資産	消費	物価	所得・消費 全般
全体	<b>0.45</b>	<b>0.42</b>	0.36	0.27	<b>0.57</b>
18～19歳	<b>0.80</b>	<b>0.67</b>	0.00	0.25	<b>0.47</b>
20代	<b>0.51</b>	0.35	0.35	0.22	<b>0.65</b>
30代	<b>0.43</b>	<b>0.44</b>	<b>0.45</b>	0.32	<b>0.55</b>
40代	0.39	0.37	0.30	0.24	<b>0.59</b>
50代	<b>0.42</b>	<b>0.41</b>	0.31	0.22	<b>0.56</b>
60代	<b>0.51</b>	<b>0.48</b>	0.34	0.31	<b>0.58</b>
70歳以上	<b>0.45</b>	<b>0.47</b>	<b>0.41</b>	0.26	<b>0.49</b>

	子育て・教育					
	出産・育児	幼稚園 ・保育園	小中高の 教育	高等教育の 機会	家庭教育	子育て ・教育全般
全体	0.19	0.17	0.18	0.22	0.22	0.26
18～19歳	-0.14	-0.30	0.14	0.02	0.20	0.30
20代	-0.01	0.00	0.12	0.27	0.26	0.24
30代	0.40	0.28	0.20	0.20	0.33	0.32
40代	0.24	0.20	0.25	0.23	0.27	0.28
50代	0.13	0.12	0.12	0.17	0.17	0.26
60代	0.14	0.13	0.11	0.13	0.14	0.20
70歳以上	0.28	0.30	0.28	0.28	0.23	0.26

	文化			
	生涯学習	文化施設	文化財・ 伝統継承	文化全般
全体	0.25	0.32	0.29	0.30
18～19歳	0.10	0.21	<b>0.48</b>	0.11
20代	0.08	0.21	0.22	0.23
30代	0.29	0.36	0.31	0.34
40代	0.30	0.32	0.26	0.30
50代	0.16	0.26	0.23	0.24
60代	0.32	<b>0.41</b>	0.34	0.33
70歳以上	0.30	0.36	0.36	0.35

	余暇					
	自由時間	余暇施設	娯楽	余暇情報	自然と親し む機会	余暇全般
全体	<b>0.50</b>	0.29	0.31	0.32	0.28	<b>0.58</b>
18～19歳	<b>0.86</b>	-0.02	-0.05	0.15	0.37	<b>0.80</b>
20代	<b>0.54</b>	0.16	0.19	0.14	0.23	<b>0.58</b>
30代	<b>0.41</b>	0.25	0.30	<b>0.41</b>	0.26	<b>0.53</b>
40代	<b>0.47</b>	0.29	0.33	0.31	0.22	<b>0.61</b>
50代	<b>0.55</b>	0.30	0.24	0.26	0.26	<b>0.60</b>
60代	<b>0.50</b>	0.31	0.37	<b>0.42</b>	<b>0.40</b>	<b>0.62</b>
70歳以上	<b>0.52</b>	0.35	0.39	0.38	0.28	<b>0.53</b>

	福祉・連帯		
	地域とのつ ながり	福祉施策	福祉・連帯 全般
全体	0.36	0.35	0.35
18～19歳	-0.17	0.19	0.06
20代	0.29	0.23	0.33
30代	0.35	0.35	0.36
40代	0.29	0.35	0.31
50代	0.35	0.32	0.33
60代	0.35	0.34	0.22
70歳以上	<b>0.48</b>	<b>0.44</b>	<b>0.49</b>

生活全般の満足度との相関が強い（相関係数が 0.4 以上）の項目は、生活全般では「安全全般」（0.43）、「居住環境全般」（0.50）、「所得・消費全般」（0.57）、「余暇全般」（0.58）に強い正の相関があることが分かる。また、項目ごとで見ると、「住宅」（0.42）、「所得」（0.45）、「資産」（0.42）、「自由時間」（0.50）に強い正の相関があることが分かる。

以上の結果から、本調査の満足度得点を見ると、「居住環境全般」及び「余暇全般」は前回調査と比較してもどちらも－2点と大きな差はないが、「所得・消費全般」は－22点となっている。また、項目ごとにみても、「所得」は－12点、「自由時間」は－10点、「資産」は－7点など、強い正の相関にある項目の点数が減少していることから、これらの項目（あるいは所得や資産、自由時間などに関する項目）が、生活全般の満足度の減少に影響していることがうかがえる。

## 7 まとめ

本章では、今回の調査のうち、県民の生活の満足度を問う設問について、過去の調査結果との比較を交えながら回答結果の整理・分析を行った。本章のまとめとして全体をさらに要約すると、次のとおりである。

第1に、「生活全般」の満足度水準は、県全体としては下降しており、満足層の比率は前回の53.5%から3.5ポイント減少し、50.0%となった。

地域別の満足層を見ると、満足層が50%を超えたのは「峡中」と「峡南」で、前回調査との比較では、すべての地域で満足層が減少している。

性別の満足度得点及び満足傾向を見ると、「女性」の方が「男性」よりも満足度水準が高くなっている。前回の結果までは、「男性」、「女性」ともに満足度得点、満足層、満足傾向は増加傾向にあったが、今回から減少に転じている。

年齢別で見た場合、「20代」及び「70歳以上」の満足層及び満足度得点が高くなっている一方、「40代」及び「50代」で低くなっている。前回との比較では、満足層の割合は「30代」及び「40代」で若干の増加はあるものの、満足層及び満足度得点は概ねすべての年代で減少している。その中でも「20代」の満足度得点は26点減少しており、減少幅が大きくなっている。

職業別で見た場合、職業ごとの満足度得点、満足傾向を比較すると、「勤め人」は他の職業と比べて、満足度得点及び満足傾向が低い結果となった。前回との比較では、満足度得点、満足層の割合、満足傾向すべてにおいて減少している。

県内への居住年数別及び県外居住経験別で見た場合、すべての居住年数層において満足度得点が減少している。また、県外における「居住経験あり」「居住経験なし」においても、どちらも満足度得点が同程度に減少している。

第2に、「領域全般」の満足度得点については、「全県」において前回と比較できる7領域すべてにおいて、前回より減少している。特に「健康」「所得・消費」では2桁の減少となっている。

地域別で見た場合、「峡東」「峡南」「富士・東部」においては7領域すべてで減少しているほか、「峡北」においても6領域減少するなど、地域による多少の違いはあるものの、全体的に減少傾向である。

性別では、「男性」と「女性」の得点差が2桁ある領域は見られず、前回との比較では、「女性」の「余暇」でプラスになった以外、すべての領域で減少または変化がなかった。

年齢別で見た場合、「20代」及び「70歳以上」で比較的得点が高い領域が多い一方、「50代」及び「60代」で比較的得点が高い領域が多くなっている。

県外居住経験の有無で見た場合、「居住経験あり」が「所得・消費」「福祉・連帯」「健康」を除くすべての領域で前回より増加している一方、「居住経験なし」ではすべての領域で減少している。

第3に、個別項目については、地域や項目によって異なる場合もあるが、前回よりも全体的に満足度水準が低下しており、すべての地域で満足度得点がプラスとなった項目は18項目で、前回と変わらなかった一方、すべての地域で満足度得点がマイナスとなった項目は、前回の5項目か

ら2項目増の7項目となった。また、地域間の得点差が相当程度大きい(35点以上)項目の数は、項目ごとに入出りがあるものの、前回より4項目減の9項目であった。

第4に、生活全般の満足度の相関関係について分析した結果から、強い正の相関関係(相関係数0.4以上)にある項目である「所得・消費全般」において-22点となっていることや、生活全般の満足度と強い正の相関にある項目の点数が減少していることが、生活全般の満足度の減少に影響していることがうかがえる。

これらの結果を踏まえ、満足度得点の状況、推移について考察すると、次の通りである。

「生活全般」の満足度を押し下げた要因の1つとしては、20代及び50代の満足度が前回調査よりも減少していることが挙げられる。20代及び50代の領域別の満足度を見ると、「子育て・教育」「文化」を除くすべての領域で前回調査から減少しており、特に20代は「仕事」で、50代は「健康」で大幅な減少となっている。また、「18~19歳」を除くすべての年代において、「所得・消費」と「福祉・連帯」で減少していることが、「生活全般」の満足度の減少に影響を与えている可能性があることが考えられる。

これらの主な要因として、昨今の物価高の影響が考えられる。総務省による消費者物価指数の総合指数によると、2020年を基準とした物価を100とした場合、令和7年11月は113.2となっており、基準年と比べると、物価が13.2%上昇したこととなる。しかし、物価高対応における所得の増加が追い付いていないため、実質賃金が減ったことで消費の減少やサービスの利用低下につながる。その結果、子育てと介護の両方を直視する「50代」が特にその影響を受け、「健康」や「福祉・連帯」の満足度の低下につながっているのではないかと推察する。

物価高の影響を受ける中でも、県民一人ひとりが将来にわたって安定して暮らし、豊かさを実感できる山梨を実現するためには、負担軽減に資する支援策を講じるだけでなく、所得向上や就業機会の拡大につながる「稼ぐ力」の強化が不可欠である。ここでいう「稼ぐ力」とは、生産性や付加価値の向上を通じて、賃上げや雇用の安定につながる地域経済の基盤を高めることである。

本県においては、子育て世帯への支援や、福祉・医療現場、事業者等への物価高騰対策など、生活にかかる負担の軽減に向けた施策を着実に実施するとともに、やまなしキャリアアップ・ユニバーシティ(CUU)等を活用した学び直し・リスクリングの機会を充実させ、DXや業務改善、経営力強化などに資する人材育成を推進している。

こうした取組を通じて、働く人の能力向上と企業の生産性向上を両輪で進め、所得向上や働きがいの向上、地域産業の競争力強化につなげることで、県民一人ひとりが豊かさを感じられる持続可能な地域づくりに努めることが重要である。今後も物価高の影響が継続することが見込まれる中、県民生活の安定と地域経済の持続的な発展に向け、関係機関と連携しながら、これらの取組をより一層強化していく必要がある。